

3 市民による個別事業評価

3 市民による個別事業評価

3.1 市民全体を調査対象とした個別事業評価

調査対象を市民全体（年代・性別を問わない）とした個別事業評価については、「2 市民による市政評価」の調査票に合冊し、併せて実施した。

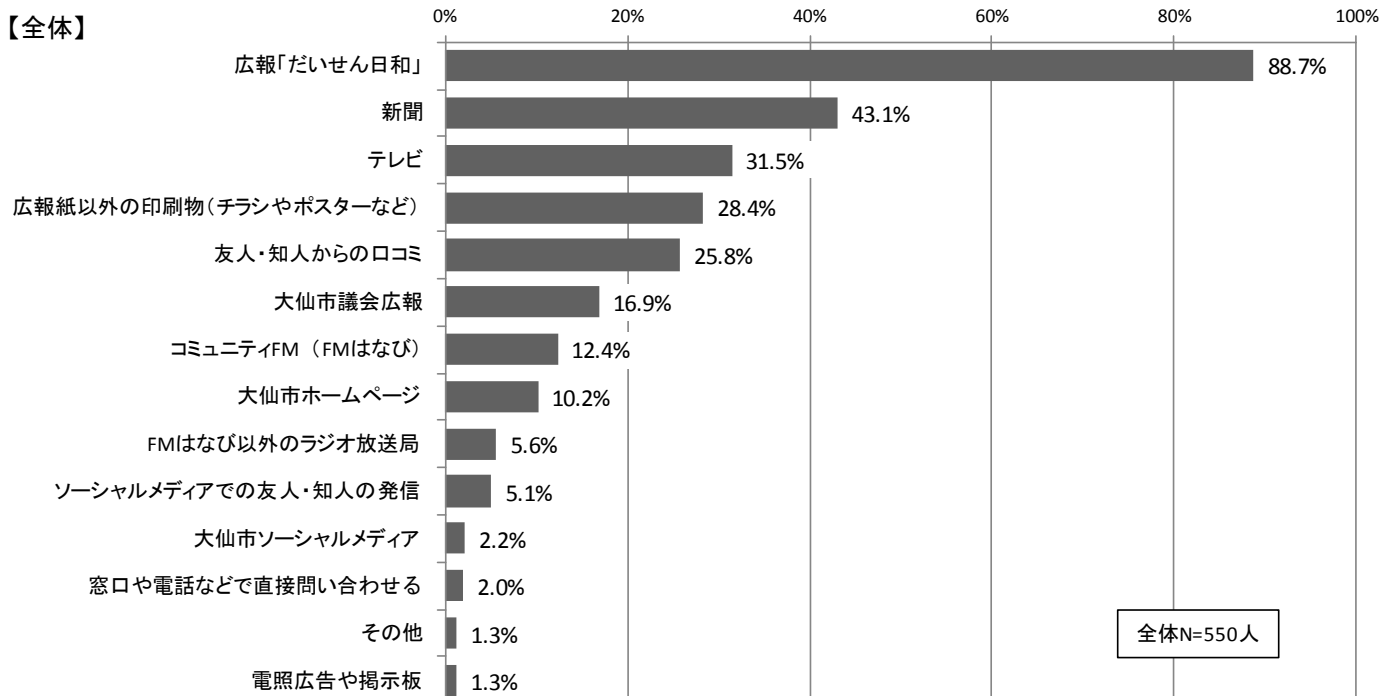
従って、調査対象、回答率、回答者の属性については、市民による市政評価の結果と同じ（p 8・9を参照）になっている。

3.1.1 市の広報活動について

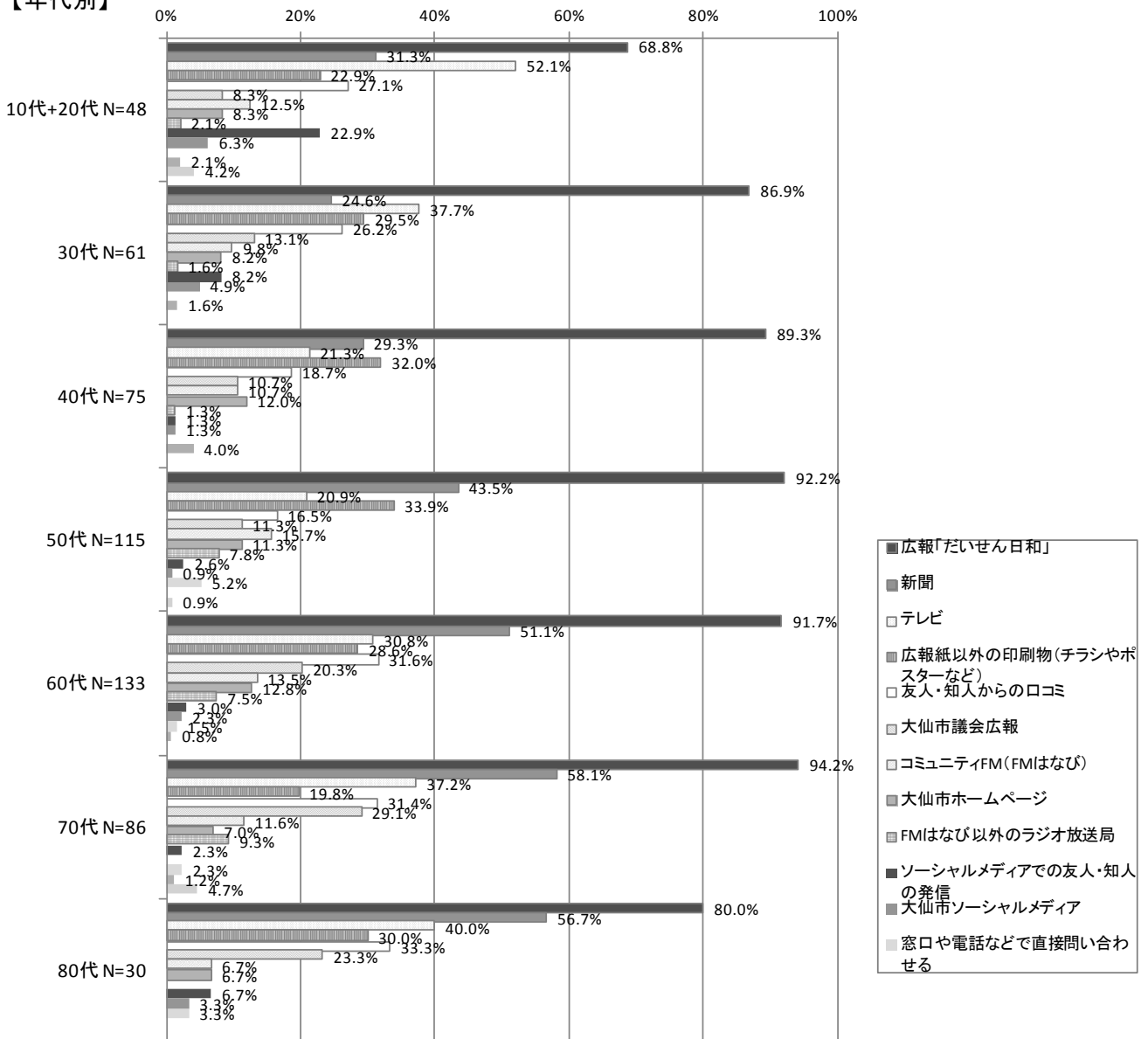
（企画部広報広聴課）

- ◆ 調査目的：市の施策・事業等に関する各種情報（月2回の広報紙発行、ホームページ、SNS、コミュニティFMでの発信）について、より効果的で効率的な広報活動を行うため、現在市の情報発信の主な手段となっている広報に関することや、市民のみなさんの普段の情報収集方法等について調査する。

【問1】市政や市のイベントに関する情報を何から得ていますか。（複数回答可）



【年代別】



■ その他意見

- ・ SNS (20代/女性)
- ・ 学校から配布されたりする (40代/女性)
- ・ 保育園 (30代/女性)
- ・ 特に情報を必要としない (40代/男性)
- ・ 職場 (40代/女性)

○最も多くの方が市の情報を得る手段として利用しているのは「広報『だいせん日和』」で88.7%、次いで「新聞」で43.1%となっている。

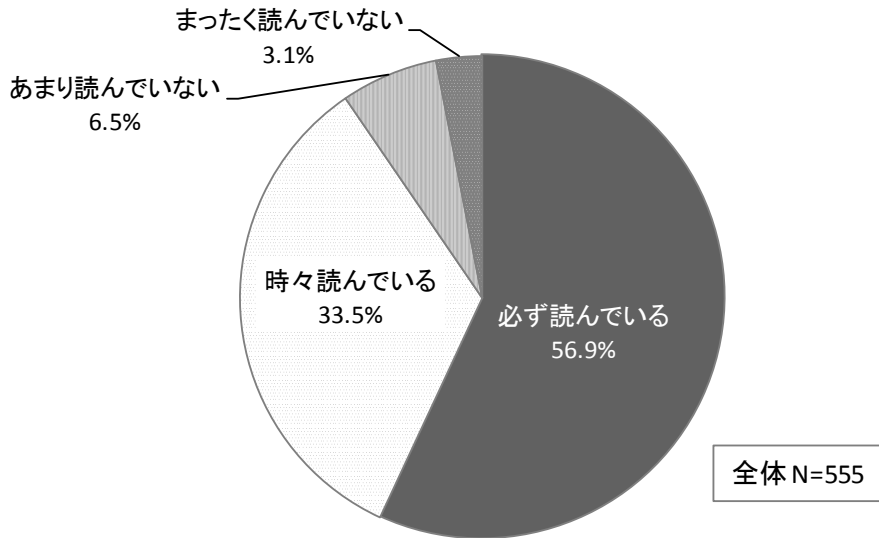
○主に市が情報発信に利用している媒体順では、広報「だいせん日和」88.7%に次いで、「(チラシポスターなどの)印刷物」28.4%、「コミュニティFM(FMはなび)」で12.4%、「大仙市ホームページ」で10.2%、「大仙市ソーシャルメディア」で2.2%となっている。

○年代別に見てみると、全年代で「広報『だいせん日和』」が最も高く、30代から80代で80%以上の方が「市の広報」と回答している。

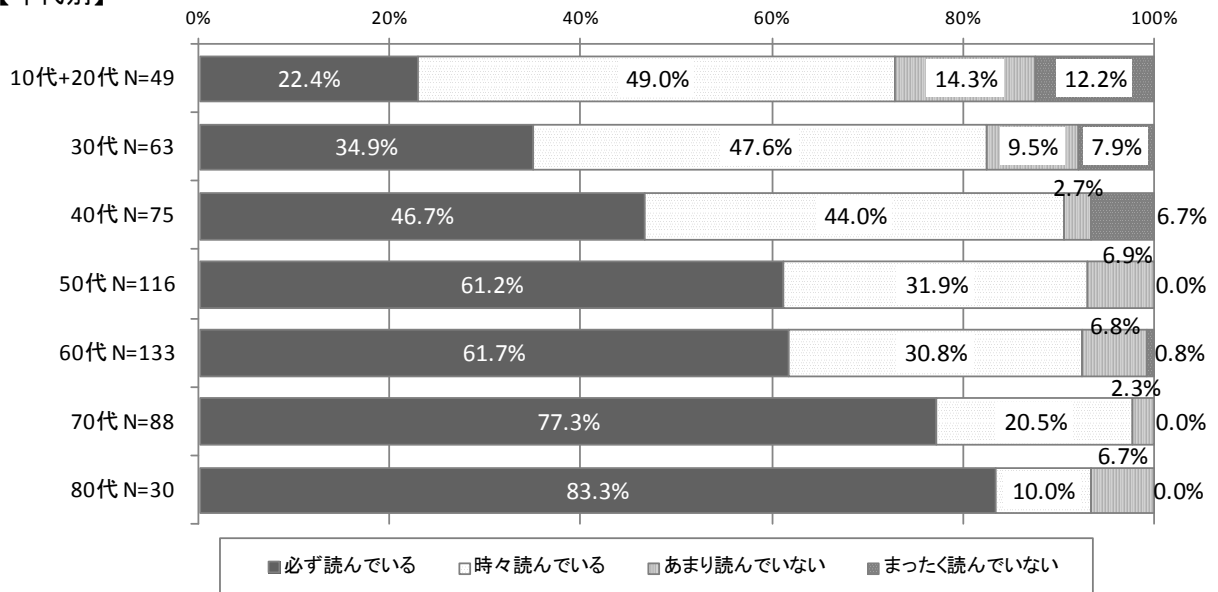
○「市の広報」に次いで多いのは、10代と20代を合わせた年代と30代では「テレビ」、40代では「広報紙以外の印刷物(チラシやポスターなど)」、50代以上はすべて「新聞」となっている。

【問2】市の広報紙「だいせん日和」を読んでいますか。

【全体】



【年代別】



○全体では「必ず読んでいる」が最も多く 56.9%で、次いで「時々読んでいる」が 33.5%となっている。市の広報を「必ず読んでいる」「時々読んでいる」を合わせた、広報を日常的に読んでいる方は、90.4%となっている。

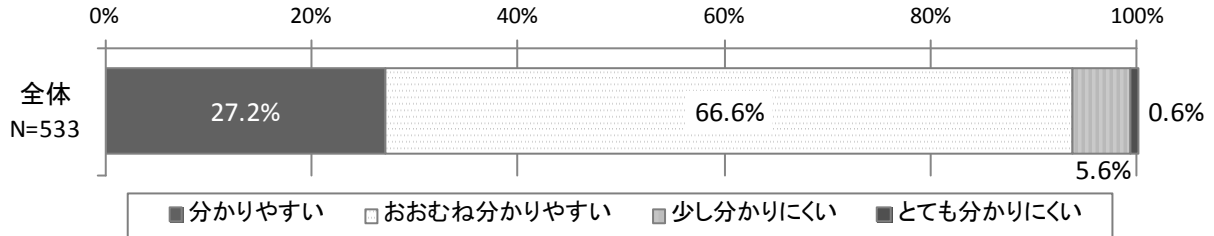
○年代別では、「必ず読んでいる」と回答した割合は10代と20代を合わせた年代で22.4%、年代が上がるほど割合が上がり、80代では83.3%の方が市の広報を「必ず読んでいる」と回答している。

○市の広報を「全く読んでいない」と回答したのは全体で3.1%であるが、年代で見ると、全く読んでいない割合が多いのは10代と20代を合わせた年代で12.2%、次いで30代で7.9%、40代で6.7%と年代が上がるほど割合が減り、60代の0.8%(1人)を除く50代以上については市の広報を「全く読んでいない」と回答した方はいない。

【問2-1】 広報紙「だいせん日和」の紙面構成・内容は分かりやすいですか。

(問2で「必ず読んでいる」「時々読んでいる」「あまり読んでいない」と回答した方)

【全体】



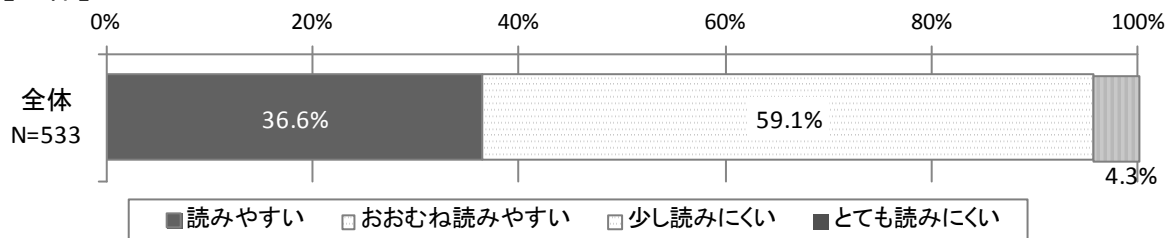
■ 「少しわかりにくい」「とてもわかりにくい」の具体的な意見

- ・ 堅い話を堅く書いている。イベント等はやる内容や目玉など詳細をなるべく書いてほしい。イベント時は行って楽しい、メリットを感じないといけない対象の年齢が自分と違った（思っていたイベントでなかった）場合、行けなければよかったと思う（20代/女性）
- ・ 文章の移り変わりがたまにわかりにくい（30代/男性）
- ・ 題項目を太文字記載（60代/女性）
- ・ レイアウト、本紙への折り込みが多くて煩わしい（40代/男性）
- ・ 良いことしか広報しない（60代/男性）
- ・ 他市町村と比較できないのでわからない（60代/女性）
- ・ 医療の達人、宣伝？（50代/男性）
- ・ 内容が多い（60代/女性）
- ・ 若者向けではない（20代/女性）
- ・ 色分けしてくれれば（60代/女性）

○紙面構成や内容について、「おおむね分かりやすい」と回答した方が最も多く66.6%、次いで「分かりやすい」と回答した方が27.2%となった。「分かりやすい」「おおむね分かりやすい」の回答を合わせると93.8%となっている。

【問2-2】 広報紙「だいせん日和」の紙面レイアウト、デザイン、配色、文字の大きさなどは読みやすいですか。(問2で「必ず読んでいる」「時々読んでいる」「あまり読んでいない」と回答した方)

【全体】



■ 「少し読みにくい」「とても読みにくい」の具体的な意見

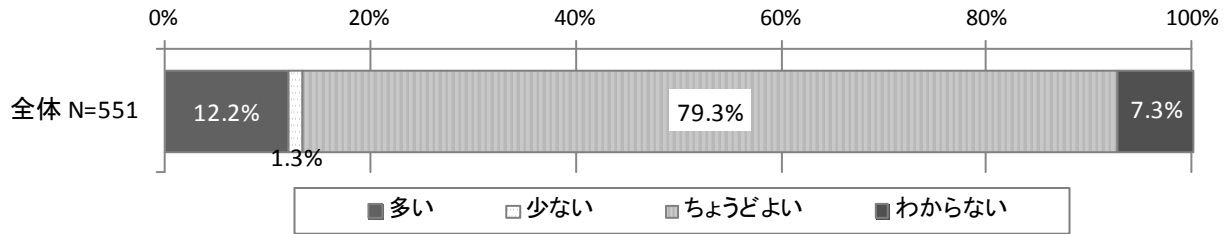
- ・ レイアウトがダメ (40代/男性)
- ・ 年寄りにも読みやすいようにしてもらいたい (80代/男性)
- ・ 目を引かない (40代/男性)
- ・ 全体的にレイアウトがつまらない。写真を多用、大きさの強弱 (40代/男性)
- ・ 文字が小さい (20代/女性)
- ・ 字が小さい (40代/男性)
- ・ 字が小さいと思う (60代/女性)
- ・ 活字を少し大きめに (60代/女性)
- ・ 文字を大きくしてもらいたい (60代/女性)

○紙面レイアウト、デザイン、配色、文字の大きさについて、「おおむね読みやすい」と回答した方が最も多く59.1%、次いで「読みやすい」と回答した方が36.6%だった。「読みやすい」「おおむね読みやすい」の回答を合わせると95.7%となっている。

○「とても読みにくい」と回答した方はいないが、「少し読みにくい」が4.3%で、具体的な意見の中には20代から60代の男女5人から「字が小さい」という意見があった。

【問3】現在の広報紙「だいせん日和」の発行回数（毎月1日、16日の月2回(1月・8月は1日号のみ)）についてどう思いますか。

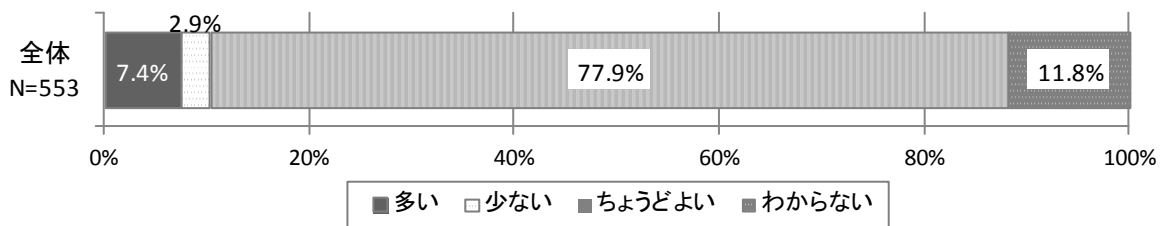
【全体】



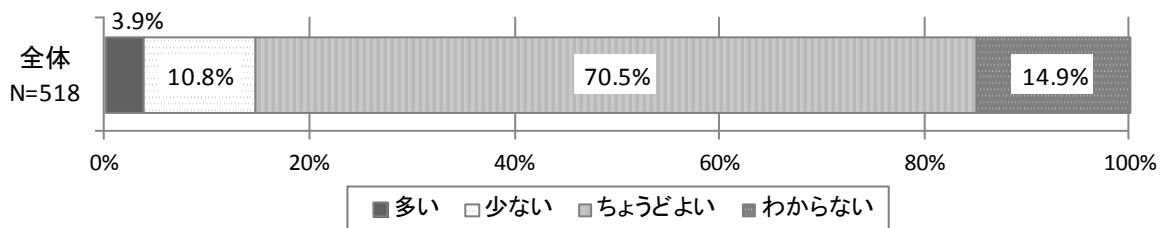
○発行回数について、「ちょうどよい」と回答した方が79.3%で最も多く、次に多かったのは「多い」で12.2%となっている。

【問4】現在の広報紙「だいせん日和」のページ数はどう思いますか。

【毎月1日発行号 カラー刷 平均28ページ】



【毎月16日発行号 黒1色刷 平均10ページ】

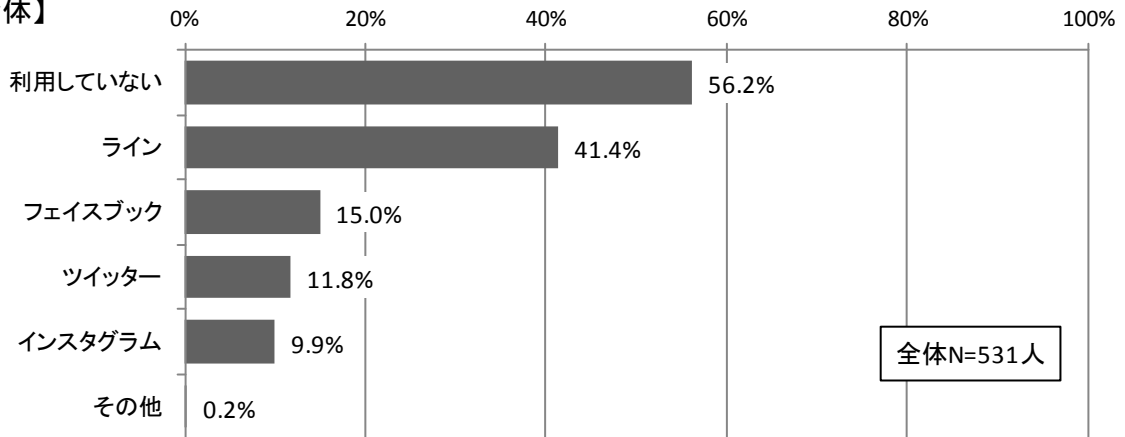


○毎月1日発行号については、「ちょうどよい」が77.9%で最も多く、「わからない」が11.8%で次に多かった。3番目に回答が多かったのは「多い」で7.4%となっている。

○毎月16日発行号について、「ちょうどよい」が70.5%で最も多く、「わからない」が14.9%で次に多かった。3番目に回答が多かったのは「少ない」10.8%となっている。

【問5】ソーシャルメディア（SNS）を利用していますか。（複数回答可）

【全体】

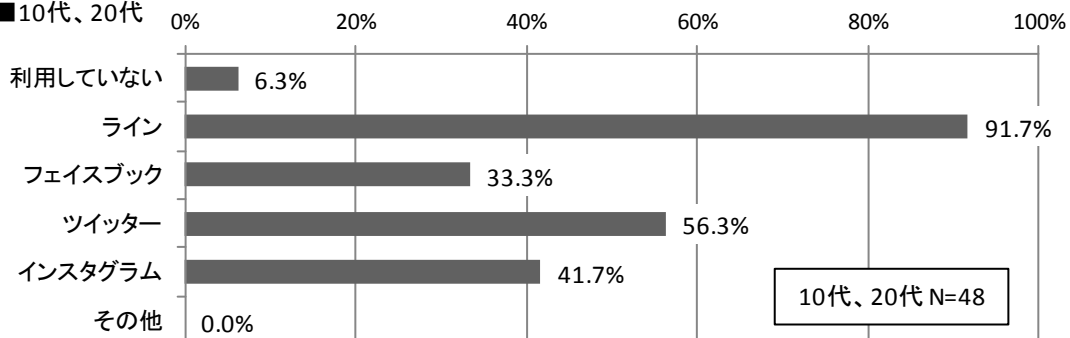


■その他回答

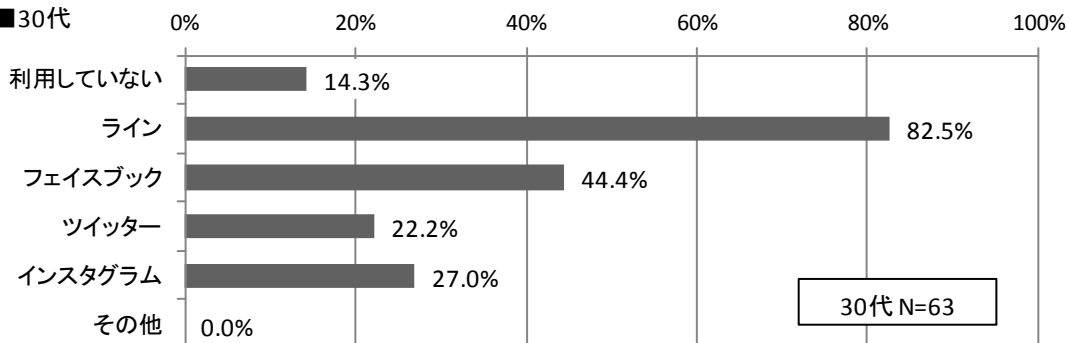
・ Wechat (40代/男性)

【年代別】

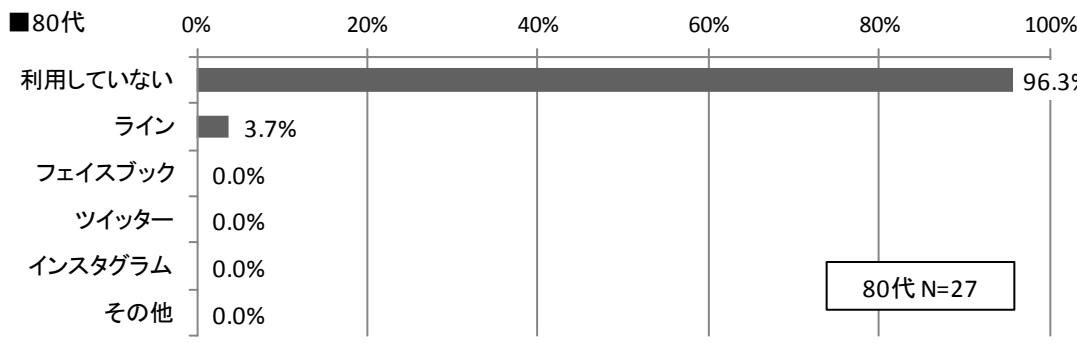
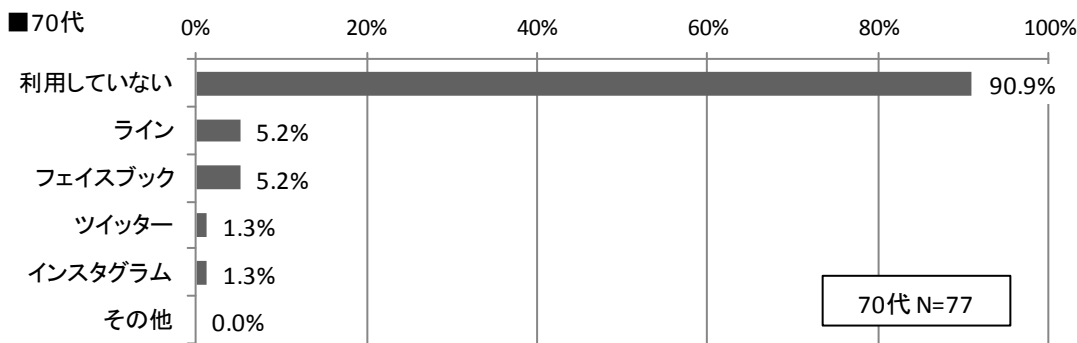
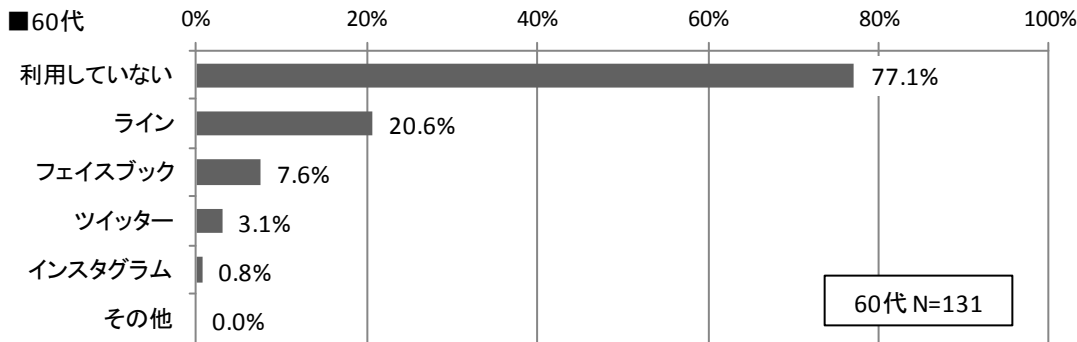
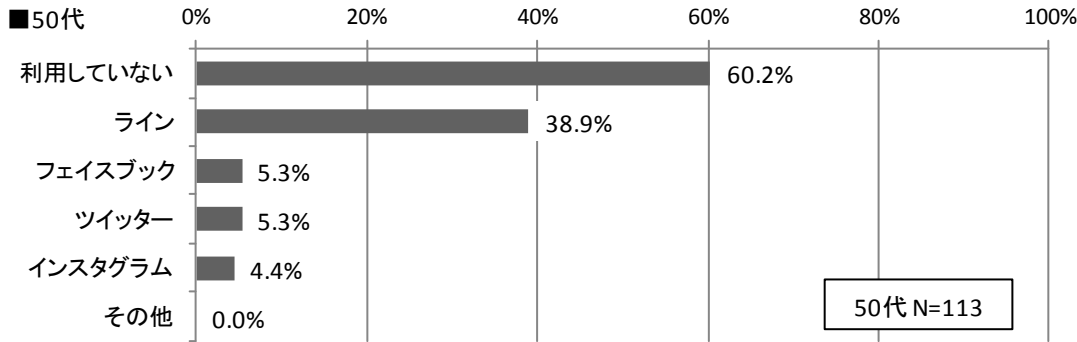
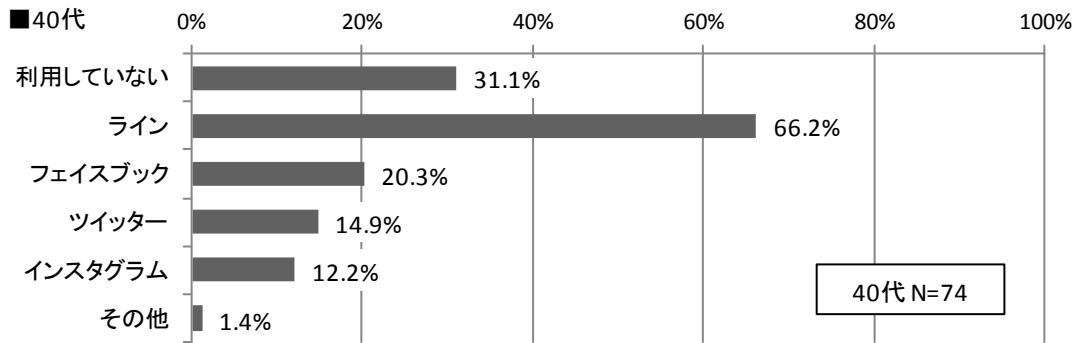
■10代、20代



■30代



3. 1. 1 個別事業評価「市の広報活動について」



- 全体で、最も回答が多かったのは「利用していない」で56.2%となっており、続いて「ライン」で41.4%、「フェイスブック」15.0%、「ツイッター」11.8%、「インスタグラム」9.9%となっている。
- 年代別で、「利用していない」が最も高くなっているのは50代からで、年代が下がるほど「利用していない」の回答は少なくなっており、10代と20代を合わせた年代では、「利用していない」と回答したのは6.3%（3人）となっている。
- 全体で最も多く利用されているSNSの「ライン」は、年代別に見ても全年代で最も利用者が多く、10代と20代を合わせた年代では91.7%、30代で82.5%、40代で66.2%となっていて、年代が上がるごとに利用されている割合が下がるものの、80代でも3.3%（1人）の利用がある。
- 年代別で、「ライン」の次に利用者の多いSNSは、10代と20代を合わせた年代が「ツイッター」で56.3%、30代が「フェイスブック」で44.4%、40代が「フェイスブック」で20.3%となっている。

◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

- 市の情報を得る手段として、「広報紙」と回答した方の割合は88.7%で最も多く群を抜いている。広報紙に関しては、「必ず読む」または「ときどき読む」との回答が全体の9割を占めるなど、市民に対して強力な発信力をもつことが確認できた（問1・2）。若者層（10～20代）では、約7割が行政情報を入手する手段として広報紙を挙げており、また、「必ず読む」「ときどき読む」も合わせて7割強に達するなど、若者層に対しても広報紙が一定の発信力を持つと考えられる。広報紙と並ぶ情報発信媒体と位置付けていたインターネットメディア（ホームページやSNS）は、情報入手手段としてあまり利用されていない（問1・5）。回答者のSNS利用率は5割以下であり、問5の選択肢の中で市が実際に導入しているフェイスブックも、2割以下の回答者しか利用していない。SNSで最も利用率が高いラインに関して本市では未導入であるが、市の情報発信手段としてのラインの利用方法、有効性を調査しながら、今後の導入を検討する。
- 広報紙については、行政情報の受信手段として市民に最も利用されていることを踏まえ、よりよい紙面づくりに努めていく。
ただし、広報紙はインターネットメディアやテレビ、ラジオに対して情報伝達の即時性で劣ることから、市ホームページと市公式フェイスブックページ、市が運営に関わるコミュニティFM（FMはなび）の利用をこれまで以上に推し進め、行政情報を市民に対して重層的に発信・周知することを目指す。

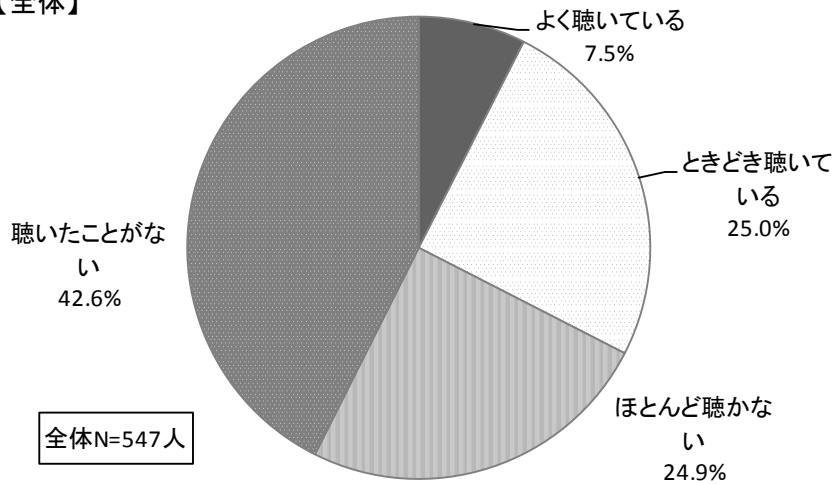
3. 1. 2 コミュニティFM(FMはなび)の利用について

(企画部広報広聴課・総務部総合防災課)

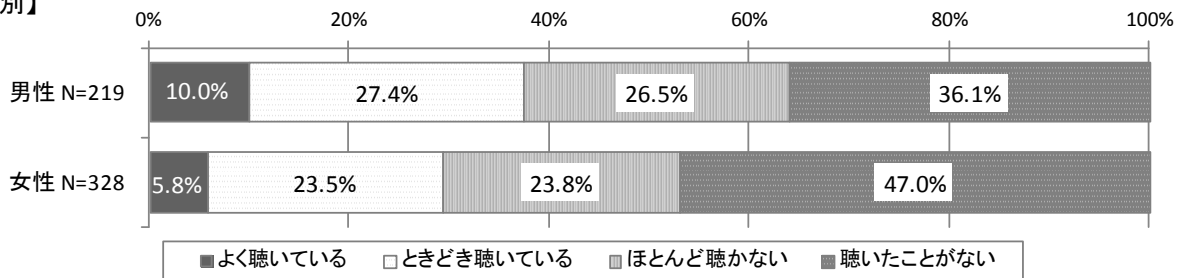
- ◆ 調査目的：市の情報発信手段としても利用しているコミュニティFM「FMはなび」、並びに、非常時の市の情報発信手段として販売や貸与を行っている「大仙市防災ラジオ」について、非常時の情報発信方法手段としてのあり方を検討するため、市民のみなさんからの認知度や利用のされ方などを調査する。

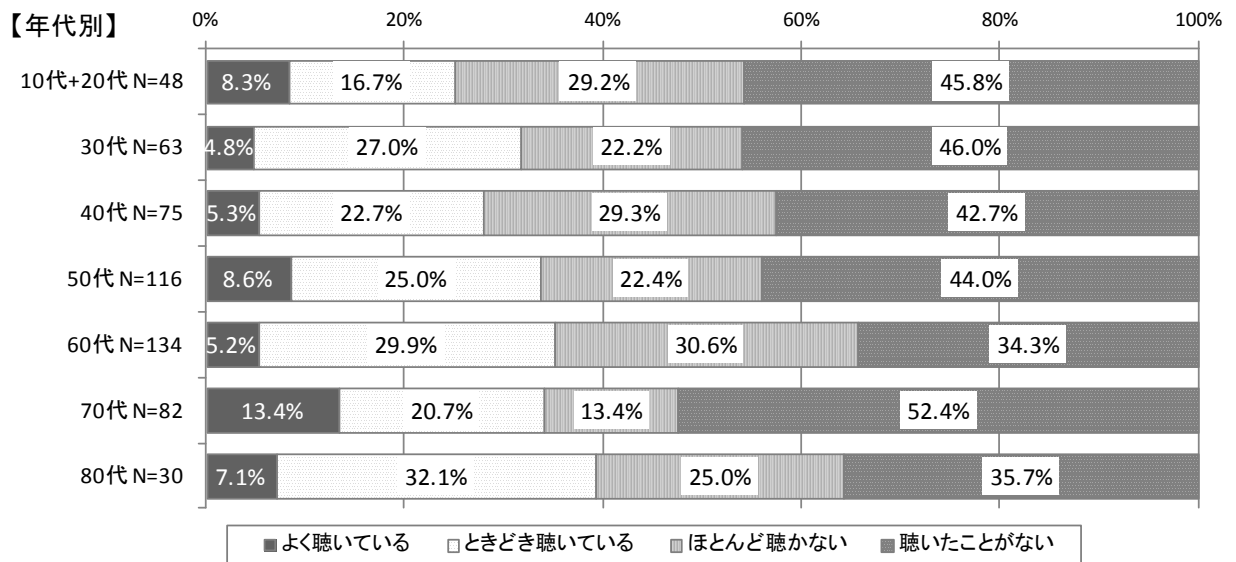
【問1】コミュニティFM「FMはなび」を聞いたことがありますか。

【全体】



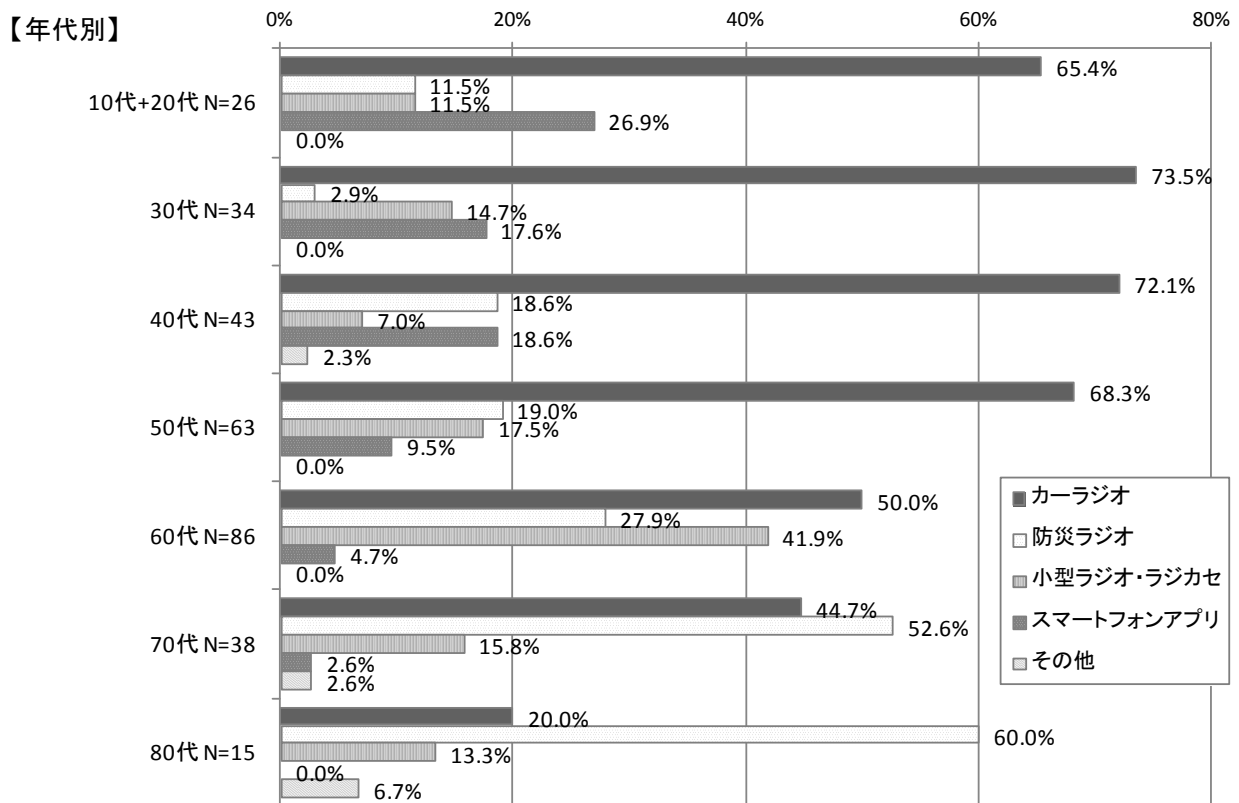
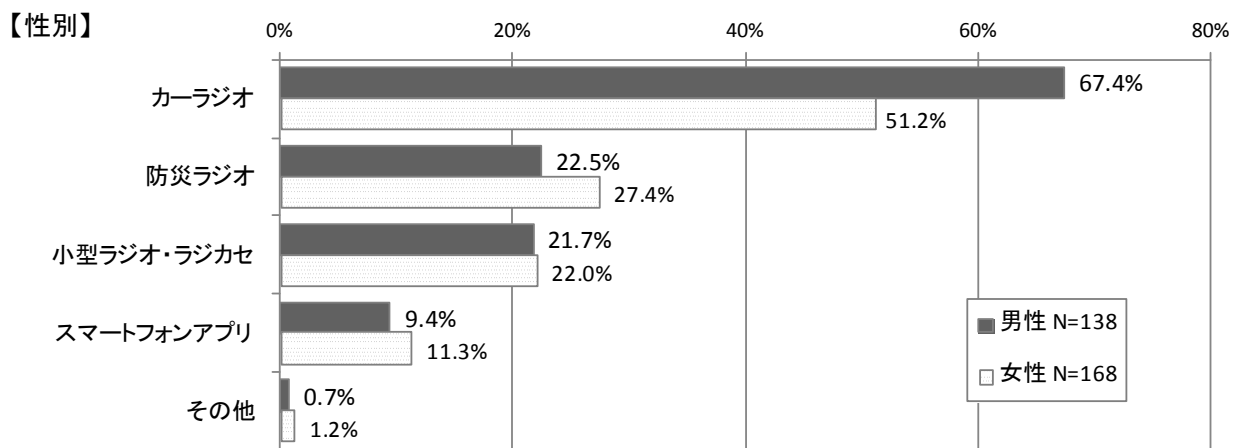
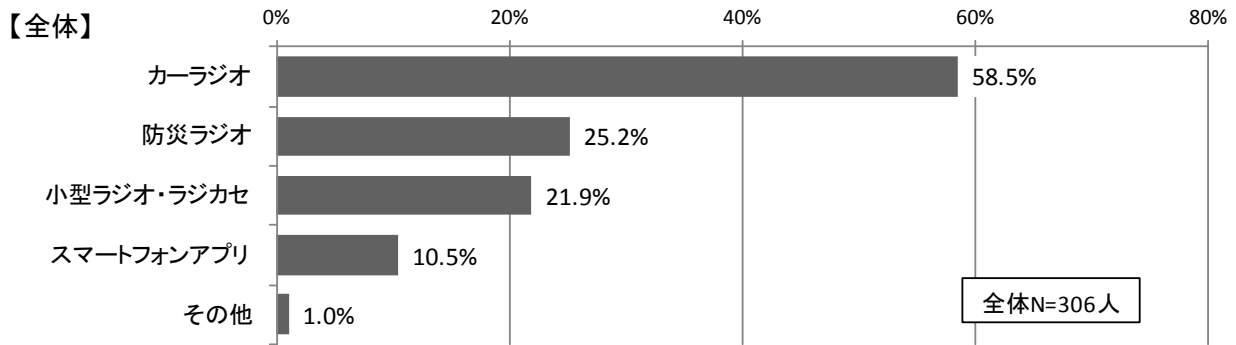
【性別】





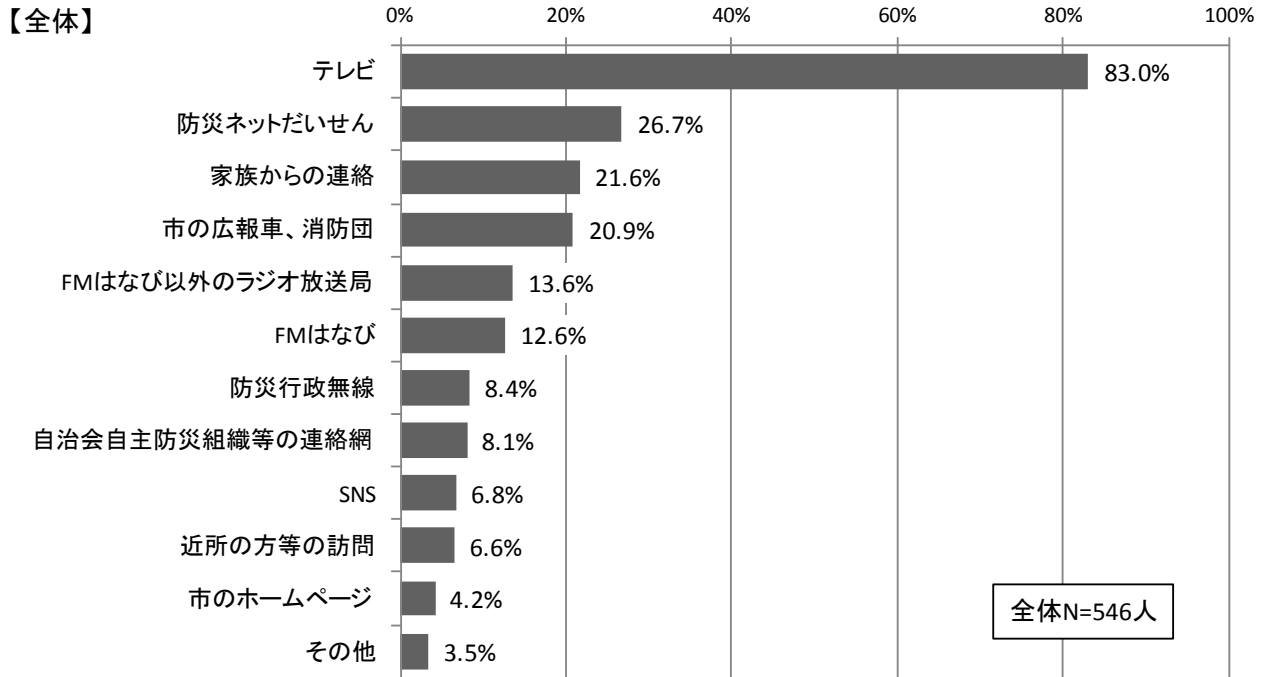
- 全体では、「聴いたことがない」が最も多く 42.6%、続いて「ときどき聴いている」が 25.0% となっている。
- 性別では、男女とも最も回答が多かったのは「聴いたことがない」で、男性が 36.1%、女性が 47.0%と、女性の方が「聴いたことがない」割合が 10.9 ポイント高い。
- 年代別では、いずれの年代でも「聴いたことがない」が最も多く、各年代の中で割合が最も高かったのは、70代で 52.4%となっている。一方で、「よく聴いている」と回答した割合は、各年代で比較すると 70代で最も高く 13.4%となっている。

【問1-2】 普段、FMはなびをどの機器で聴いていますか。（複数回答可）
 （問1で「よく聴いている」「ときどき聴いている」「ほとんど聴かない」と回答した方）



- 全体では、「カーラジオ」が最も多く 58.5%、続いて「防災ラジオ」で 25.2%、「小型ラジオ・ラジカセ」が 21.9%、「スマートフォンアプリ」が 10.5%となっている。
- 性別では、全体の傾向と同様「カーラジオ」が最も多く、「防災ラジオ」、「小型ラジオ・ラジカセ」、「スマートフォンアプリ」の順となっている。
- 性別で最も多い「カーラジオ」は、男性が 67.4%、女性が 51.2%となっており、男性の方が 16.2 ポイント高い。次に割合が高い「防災ラジオ」では、女性が 27.4%、男性が 22.5%と、女性の方が 4.9 ポイント高くなっている。
- 年代別では、10 代と 20 代を合わせた年代から 50 代までは「カーラジオ」が突出しているが、60 代を境に、70 代以上では「防災ラジオ」の割合が最も高くなっている。
- 10 代と 20 代を合わせた年代では、「カーラジオ」の次に多いのは「スマートフォンアプリ」で 26.9%となっている。「スマートフォンアプリ」については、10 代と 20 代を合わせた年代での割合が最も高く、年代が高くなると割合が低くなる傾向にあり、70 代で 2.6% (1 人)、80 代では 0%となっている。

【問2】緊急時の避難情報や防災情報はどのようにして入手していますか。（複数回答可）



■「SNS」の回答内容

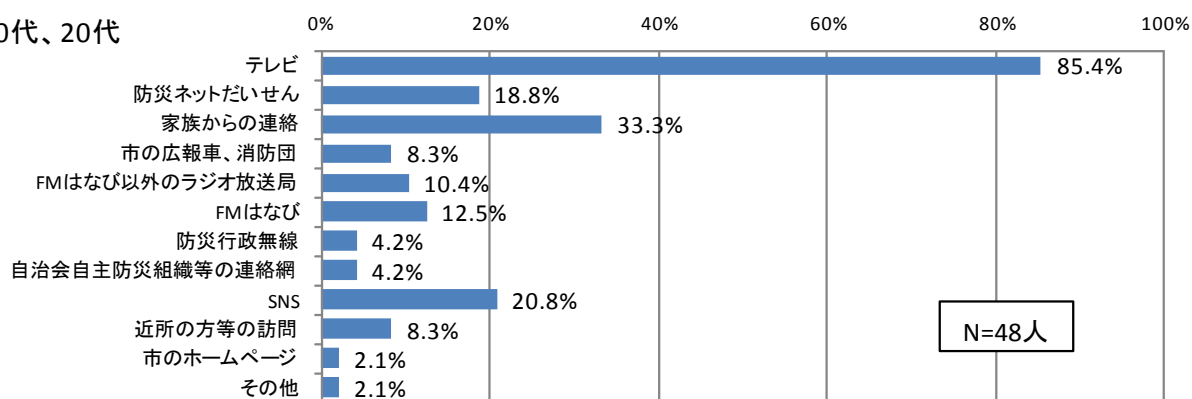
- ・ Twitter (20代/男性、20代/女性 4名、30代/男性、40代/男性 2名、50代/男性)
- ・ Facebook (40代/男性、70代/女性)
- ・ LINE (40代/男性、50代/女性)
- ・ 防災アプリ (30代/女性)
- ・ NHK 災害 (60代/男性)
- ・ スマートフォンアプリ、ゆれくる、Yahoo!Japan 災害情報 (30代/女性)

■その他の内容

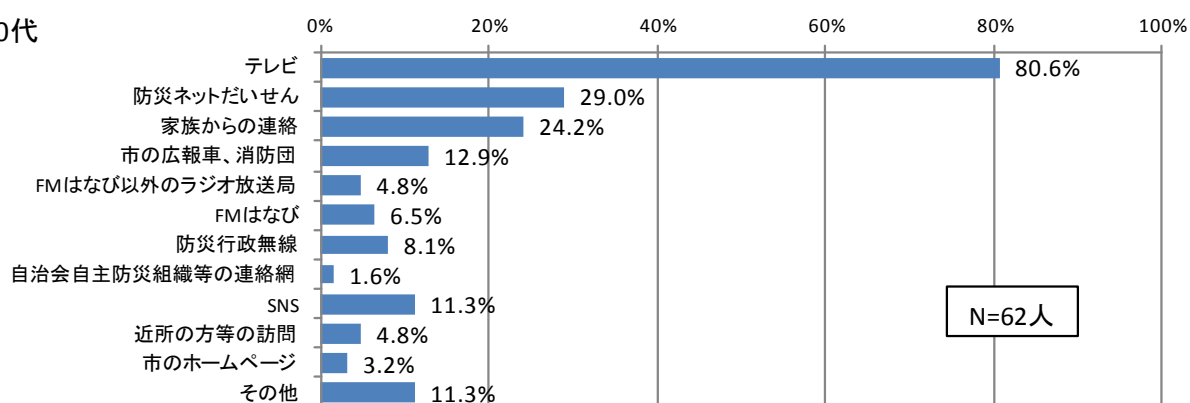
- ・ インターネット (20代/女性、30代/男性、30代/女性、50代/女性)
- ・ Yahoo!災害情報 (30代/男性)
- ・ Yahoo! (30代/女性、40代/男性)
- ・ 秋田地方気象台のHP (30代/女性)
- ・ エリアメール (30代/女性 2名、40代/女性)
- ・ スマホアプリ (50代/女性)
- ・ 自分自身 (60代/男性)
- ・ 支給されたラジオ (40代/女性)
- ・ 民生委員 (80代/女性)
- ・ 友人 (80代/女性)
- ・ 美郷町の防災スピーカー (80代/男性)

【年代別】

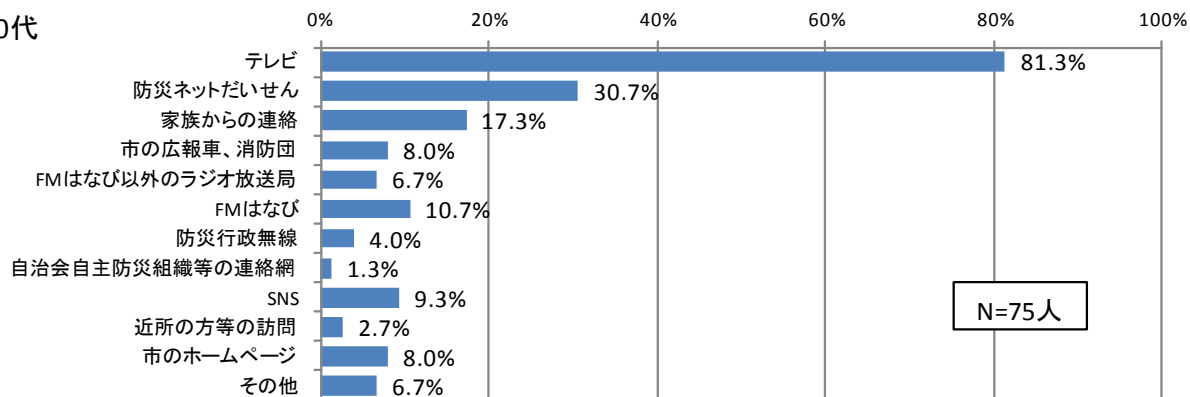
■10代、20代



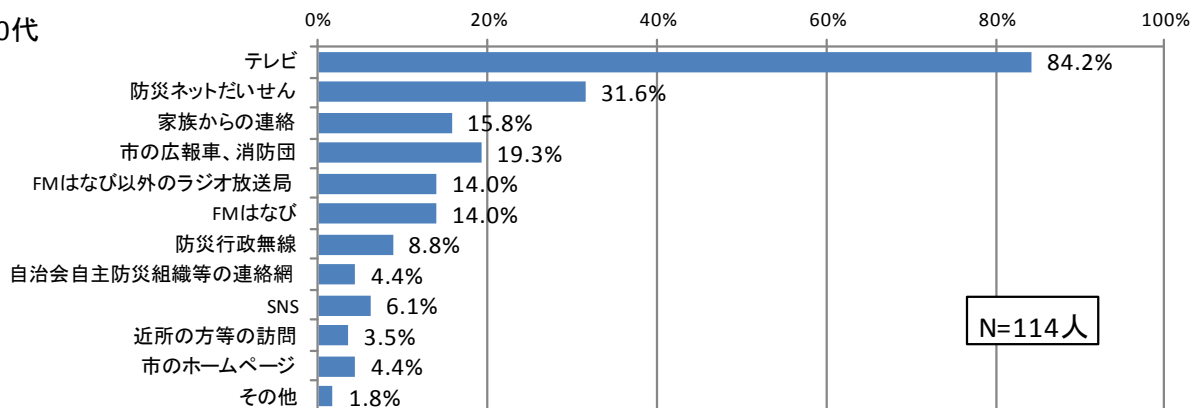
■30代



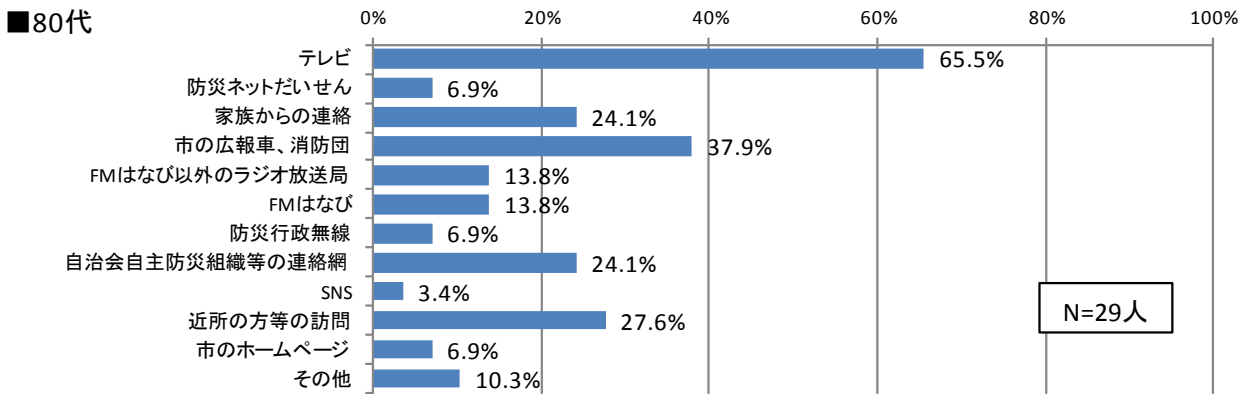
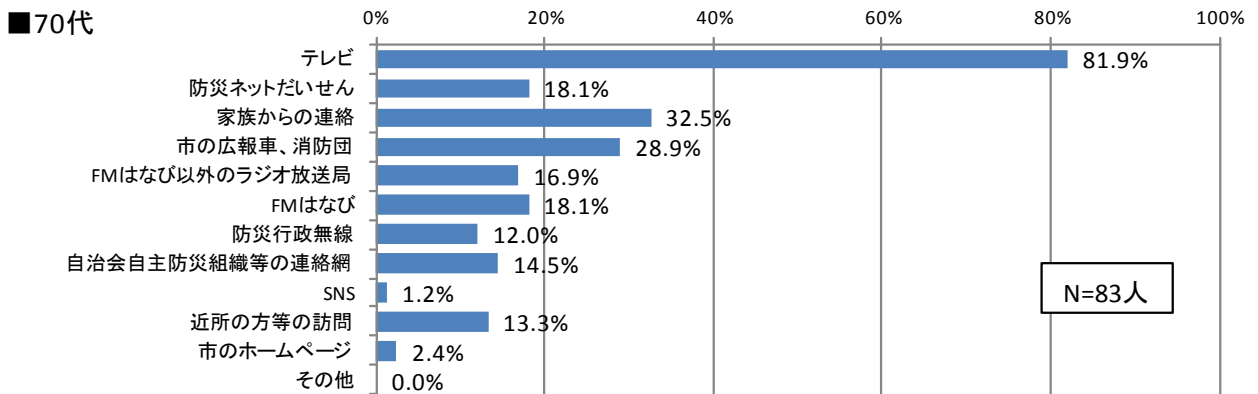
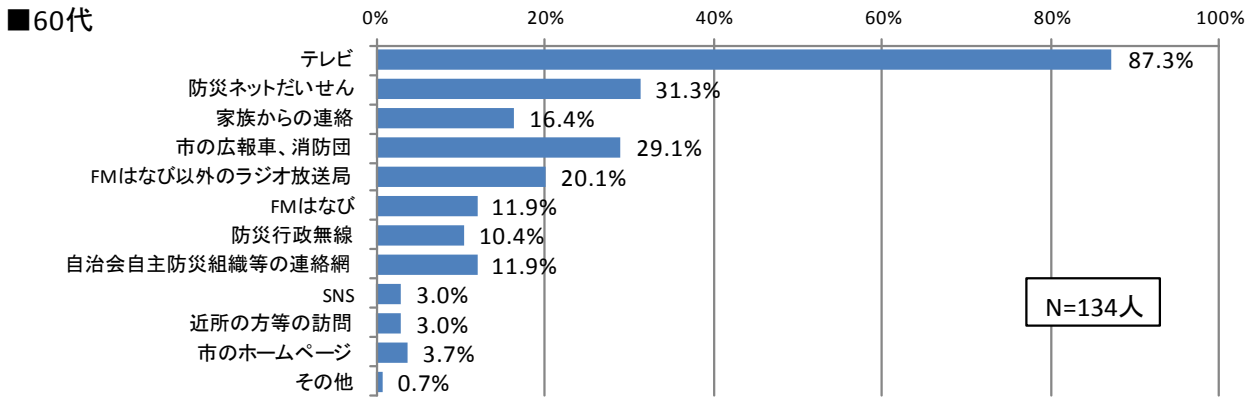
■40代



■50代



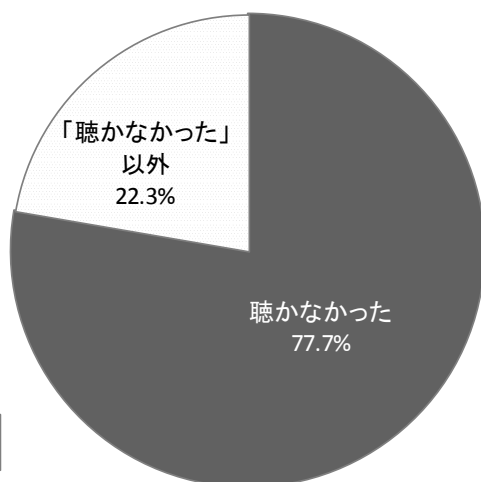
3. 1. 2 個別事業評価「コミュニティFM(FMはなび)の利用について」



○全体では、「テレビ」が最も多く 83.0%、次に多いのは「防災ネットだいせん」で 26.7%となっており、災害時の情報をテレビから入手している方が突出して多い。

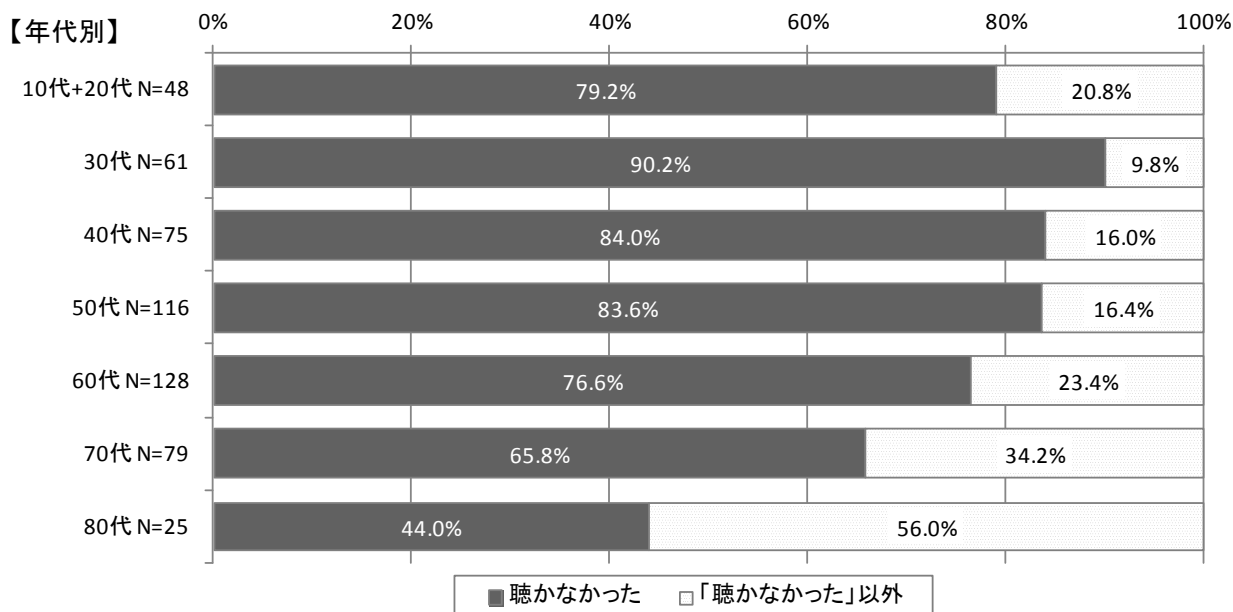
○年代別では、どの年代でも「テレビ」が最も多く、10代から70代までの各年代でいずれも80%を越えている。

【問3】平成29年夏、今年5月の大雨の際でのFMはなびの緊急放送について、いかがでしたか。（複数回答可）



全体 N=534

※「聴いた」方の中での感想を抽出するため、選択肢「1. 聴かなかった」と「2. 放送内容は適切でちょうど良いと思う…～11. その他」の割合を調査した

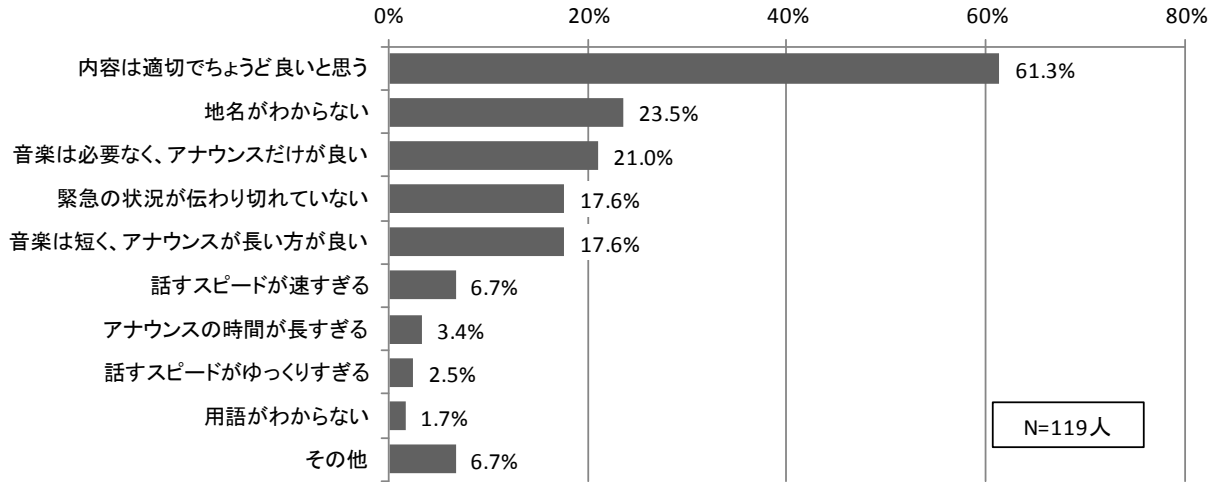


○全体では、「聴かなかった」方が多く77.7%、「『聴かなかった』以外（放送内容についての印象を選択している）」方が22.3%となっている。

○年代別では、「聴かなかった」方の割合が最も高かったのは30代で90.2%、最も低かったのは80代で44.0%となっており、30代から70代までは「聴かなかった」方の割合が高く、その割合は年代が上がるごとに低くなる傾向がある。80代では、「聴かなかった以外（放送内容についての印象を選択している）」の方が56.0%となり、聴かなかった方より聴いた方の割合が多い。

○問2において、災害時の情報入手手段として「FMはなび」を選択した方は12.6%となっているものの、本設問では、平成29年夏、今年5月の大雨の際、実際には全体で2割を超える方がFMはなびから情報を入手していたという結果となった。

【選択肢で「聴かなかった」以外を選択した方(119人中)の回答】



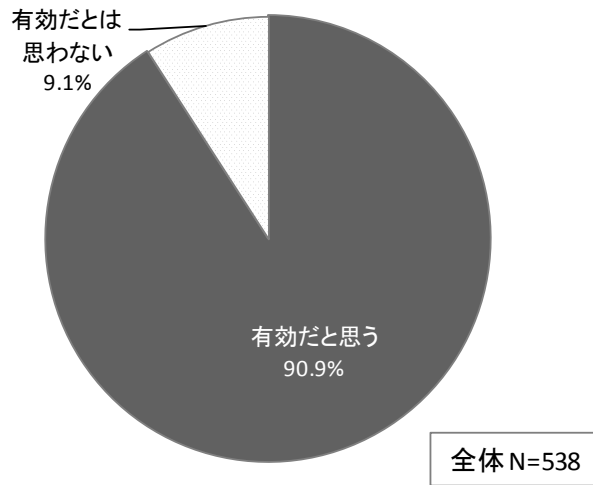
■その他回答

- ・ 聞きたくても電波が届かない。届いても雑音が多く聴きとれない。(30代/女性/大曲)
- ・ 全体的によく分からなかった(20代/女性/大曲)
- ・ 判断がわからない(60代/男性/中仙)
- ・ 大変良かったです(30代/男性/仙北)
- ・ 大通りの方はよく聞きとれるが、奥の方の小さい道路は何も聞きとれない(80代/男性/西仙北)

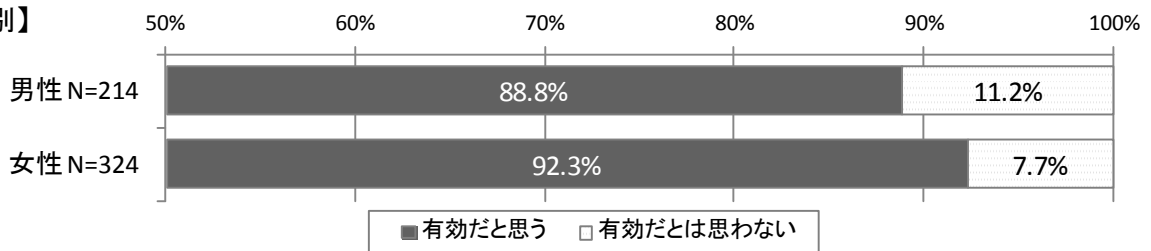
○選択肢の中で「聴かなかった」以外を選択した方のうち、最も回答が多かったのは「内容は適切でちょうど良いと思う」で61.3%、次に多かったのは「地名がわからない」で23.5%となっている。

【問4】非常時、自動的に電源が入り緊急放送が流れる「防災ラジオ」は、緊急の情報伝達手段として有効だと思いますか。

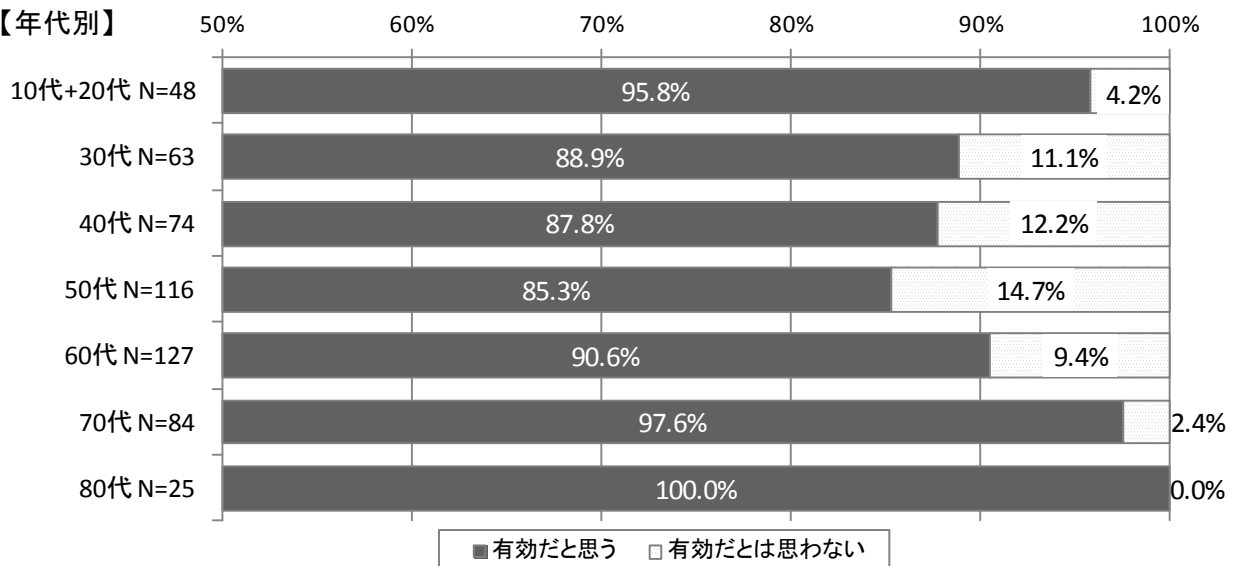
【全体】



【性別】



【年代別】



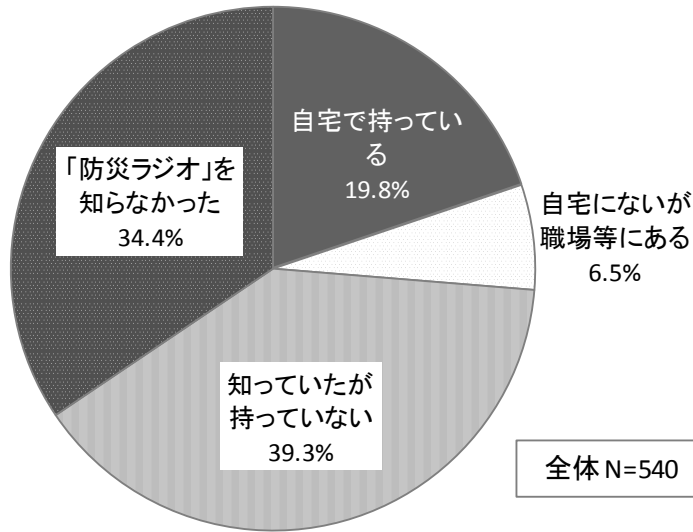
○全体では、「有効だと思う」と回答した方が90.9%、「有効だとは思わない」が9.1%となっている。

○性別では、「有効だと思う」と回答した割合が多いのは女性で92.3%、男性で88.8%となっており、男性より女性の方が「有効だと思う」と回答した方の割合が3.5ポイント高い。

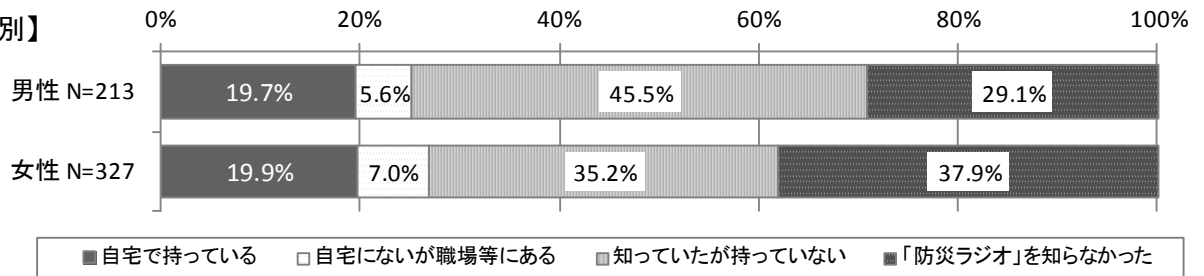
○年代別では、「有効だと思う」と回答した方の割合が最も高いのは80代で100%、最も低いのは50代で85.3%となっている。

【問5】防災ラジオを持っていますか。

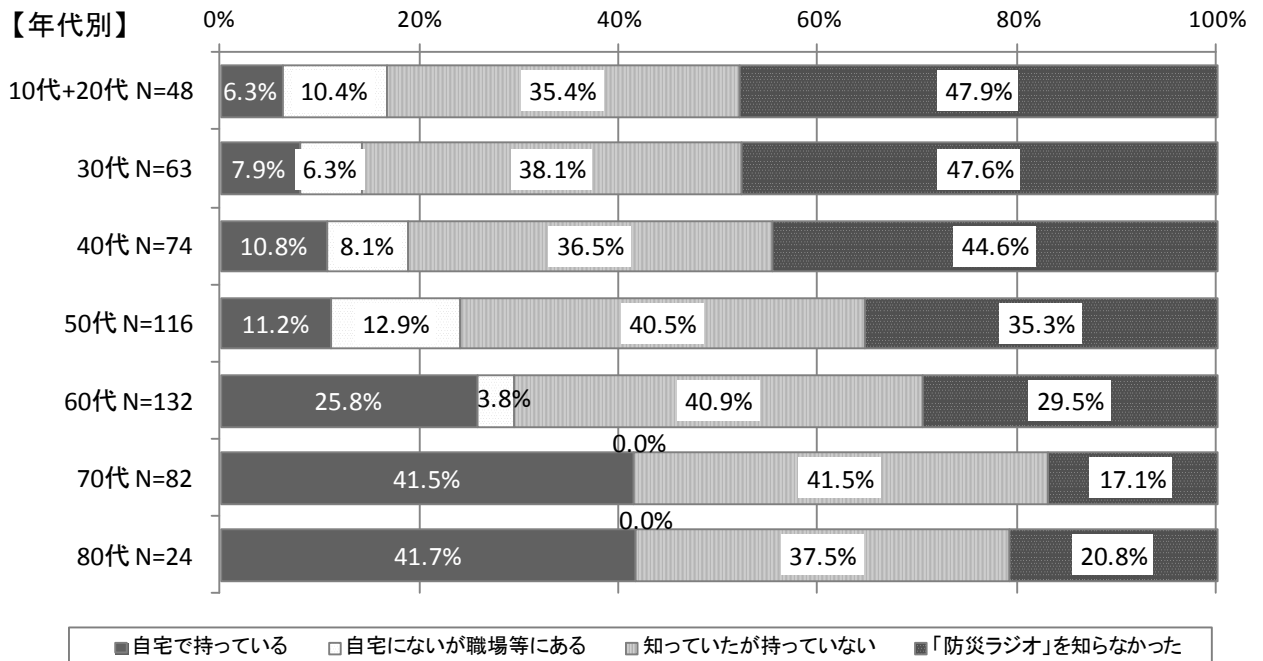
【全体】



【性別】



【年代別】



○全体では、「知っていたが持っていない」と回答した方が最も多く 39.3%、次に多かったのは「防災ラジオを知らなかった」で 34.4%となっている。

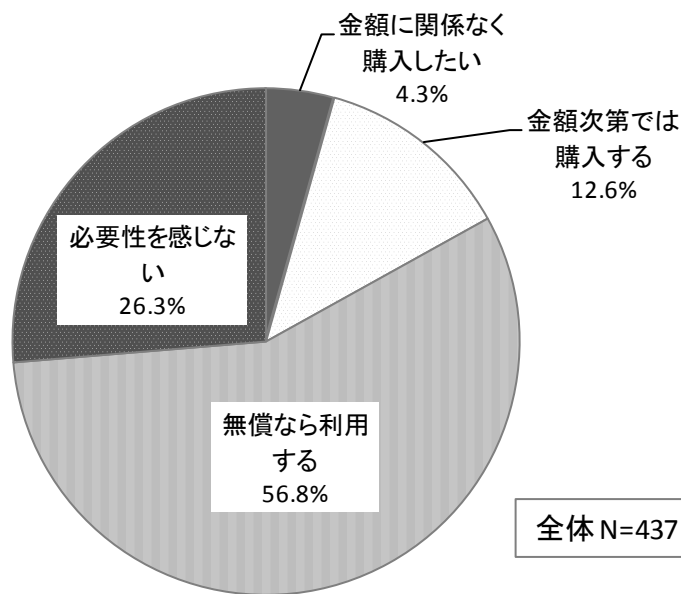
○性別では、男性で「知っていたが持っていない」が最も多く 45.5%、次に「防災ラジオを知らなかった」で 29.1%となっている。女性では、「防災ラジオを知らなかった」が 37.9%で最も多く、「知っていたが持っていない」が次に多く 35.2%となっている。

○年代別では、10代と20代を合わせた年代から40代まででは「防災ラジオを知らなかった」の割合が最も多くいずれも40%を超えている。50代、60代では「知っていたが持っていない」が最も多く40%程度、70代では「持っている」と「知っていたが持っていない」が同割合で最も多く41.5%、80代では「持っている」が最も多く41.7%となっている。

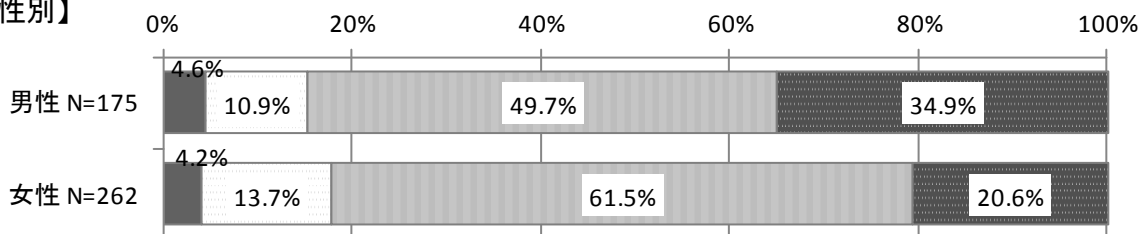
○年代が高くなるにつれて「持っている」割合が高くなり、「防災ラジオを知らなかった」割合が低くなっていく傾向がある。

【問5-1】防災ラジオを自宅用に購入したいと思いますか。

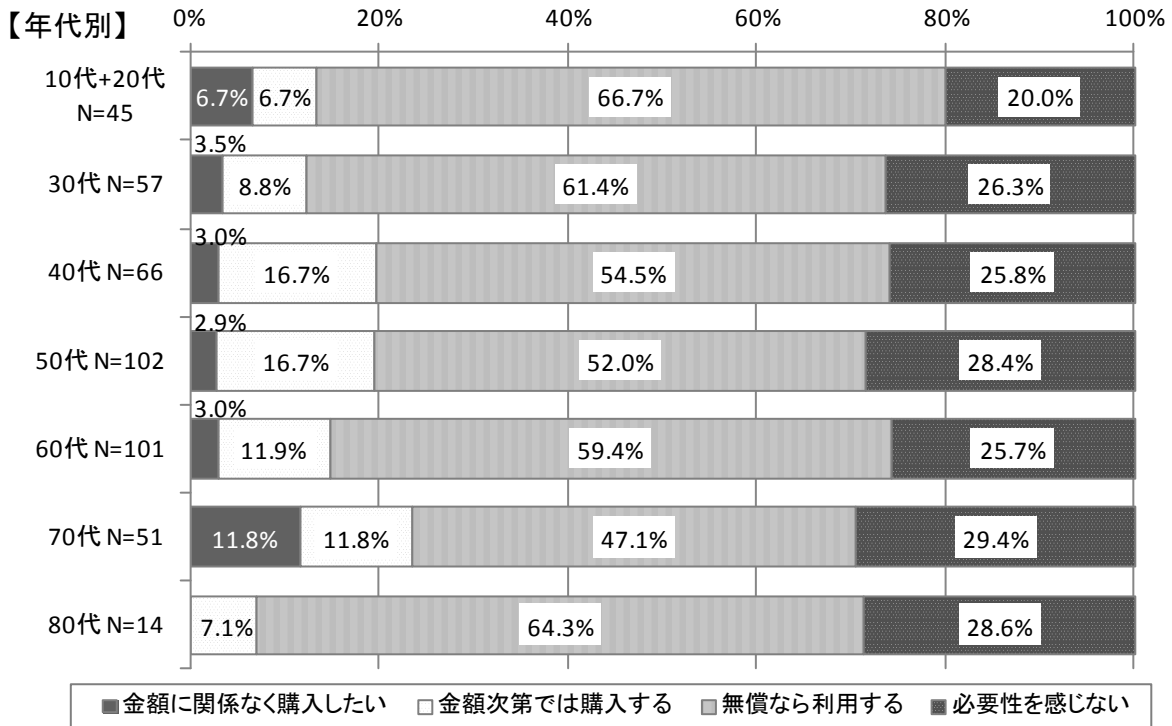
【全体】



【性別】



3. 1. 2 個別事業評価「コミュニティFM(FMはなび)の利用について」



■ 「金額次第では購入する」と回答した方のうち、希望金額を記入した方の性別、年代別の分布

金額	全体	男性	女性	10代20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
		34人	10人	24人	2人	2人	6人	13人	8人	2人
5,000円以下	15人	3人	12人	1人		1人	7人	6人		
3,000円以下	10人	3人	7人	1人	2人	2人	2人	2人		1人
2,000円以下	3人	2人	1人			2人	1人			
4,000円以下	2人	1人	1人			1人	1人			
10,000円以下	2人		2人						2人	
1,500円以下	1人	1人					1人			
3,500円以下	1人		1人				1人			

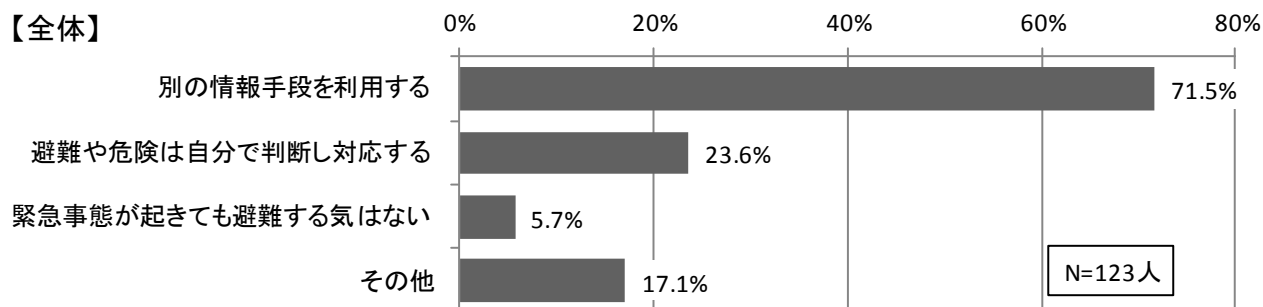
○全体では、「無償なら利用する」が最も多く、56.8%となっており、次に多いのが「必要性を感じない」で26.3%となっている。

○性別では、男女とも最も多いのは「無償なら利用する」、次に「必要性を感じない」の順となっているが、「無償なら利用する」と回答したのは、男性で49.7%、女性で61.5%となっており、女性の方が11.8ポイント高くなっている。また、「必要性を感じない」と回答したのは、男性は34.9%、女性は20.6%と、男性の方が14.3ポイント高くなっている。

○年代別では、いずれの年代も「無償なら利用する」が最も多く、次に「必要性を感じない」が多くなっている。「金額に関係なく購入したい」と回答したのが最も多いのは、70代で11.8%となっている。

○「金額次第では購入する」で具体的な金額を回答した方のうち、最も多かったのは「5,000円以下」で15人、次に「3,000円以下」で10人となっている。

【問5-2】防災ラジオを自宅用に購入することについて、「必要性を感じない」と思われる理由は何ですか。（問5-1で「必要性を感じない」と回答した方）（複数回答可）



【性別、年代別分布】

	全体	男性	女性	10代、20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
有効回答者数	123	65	58	11	17	16	30	27	15	7
別の情報手段を利用する	88 71.5%	47	41	9	11	12	26	18	8	4
避難や危険は自分で判断し対応する	29 23.6%	15	14	1	3	5	4	11	5	
緊急事態が起きても避難する気はない	7 5.7%	4	3	2	3	1	1	0	0	
その他	21 17.1%	10	11	1	4	3	3	4	3	3

○全体では、「別の情報手段を利用する」が最も多く71.5%、次に「避難や危険は自分で判断し対応する」が23.6%となっている。

○性別、年代別でも、「別の情報手段を利用する」が最も多くなっている。

■その他回答

- ・ 大きな河川もなく、山等も遠い。家もまばらである。（60代/女性/中仙）
- ・ 市役所の判断待つ（70代/女性/大曲）
- ・ 別の携帯ラジオをすでに持っている（30代/男性/大曲）
- ・ 耳が聞こえない。聞こえない人への連絡方法はどのようなのか。（60代/女性/中仙）
- ・ 祖母の家に防災ラジオがありますが、祖母は耳が聞こえないため昨年の大雨の時は避難せずに家でじっとしていました。祖母の家に行って初めて気付いたようです。耳の聞こえない人には防災ラジオがあっても効果がありません（40代/男性/大曲）
- ・ 常に家にいるとは限らないので（30代/女性/大曲）
- ・ 一人暮らし、借りにいくにもタクシー代がかかるので自分の足では行けない（80代/女性/南外）
- ・ 市民である人、ない人がいるのでは連絡手段として成り立たないのでは？（40代/男性/大曲）
- ・ 他の部屋へ持って行くのに形が大きいので扱いにくい（50代/女性/南外）
- ・ 自宅では受信できないため（60代/男性/大曲）
- ・ 足が不自由なので、避難できない一人では（80代/女性/中仙）
- ・ 普段使わなければ肝心なときに使われない（50代/男性/大曲）
- ・ 性能が悪く大不評である（50代/男性/仙北）
- ・ ラジオで良く聞くが、無償ではないと今回知った（30代/男性/神岡）

◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

○コミュニティFM「FMはなび」は、地域の元気なまちづくりを応援する市民参加型の放送局として、また、大きな災害時に被害状況や避難情報、被災後のライフライン情報などの地域の情報発信手段として、市が設置し、市の第3セクターである(株)TMO大曲が運営する公設民営のラジオ局として平成27年8月に開局した。

開局から約3年を経た今回の調査では、FMはなびを「聴いたことがない」と回答した方が4割、緊急時の情報入手手段として「FMはなび」を利用している方は1割強という結果だった。

市では、緊急時以外にもFMはなびを行政情報の発信手段として利用しており、これまでも、市民に対する広報PRをはじめ、難聴地域解消のための中継局の整備や、今年度からは、FM放送が受信しにくい世帯への屋外用外部アンテナ等設置工事の補助制度を開始し、FMを聴くための環境整備にも努めている。

非常時の情報入手手段の一つとして市民のみなさんにより広く認知していただくためにも、FMはなびを普段から身近に感じていただけるよう、市としてどのようにPRしていけるか運営会社と共に検討していきたい。

○大仙市防災ラジオは、FMはなびの電波を利用して、緊急放送を受信すると自動的に電源が入る仕組みとなっており、緊急時の市からの避難情報や災害情報の伝達手段の一つとして平成28年10月から運用を開始した。これまで、避難行動に支援を必要とする方や、それらの方々の利用施設、官公庁等に無償で貸与しているほか、購入希望者には半額を補助する制度（販売価格14,000円に対し7,000円の補助）を設け、普及に努めている。

今回の調査で、緊急時に自動で電源が入る「防災ラジオ」の有効性については約9割の方が「有効だと思う」と回答している一方で、3割以上の方が「防災ラジオを「知らなかった」と回答している。

また、防災ラジオの導入コストについては、「無償なら利用する」と回答した方が5割を超えているほか、「金額次第では購入する」と回答した方の多くは「5,000円以下」と回答しており、市民にとって現在の実質購入価格7,000円は高いと考えられていることがわかる。これらのことから、防災ラジオが認知されるよう、その有効性をさらに周知するとともに、無償で貸与する対象者や販売価格などの見直しについても検討していきたい。

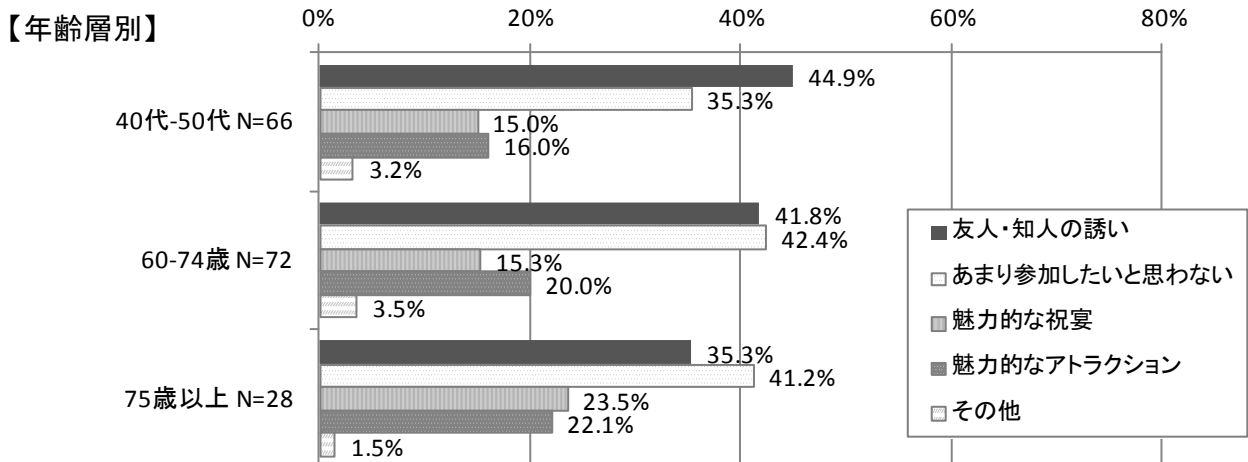
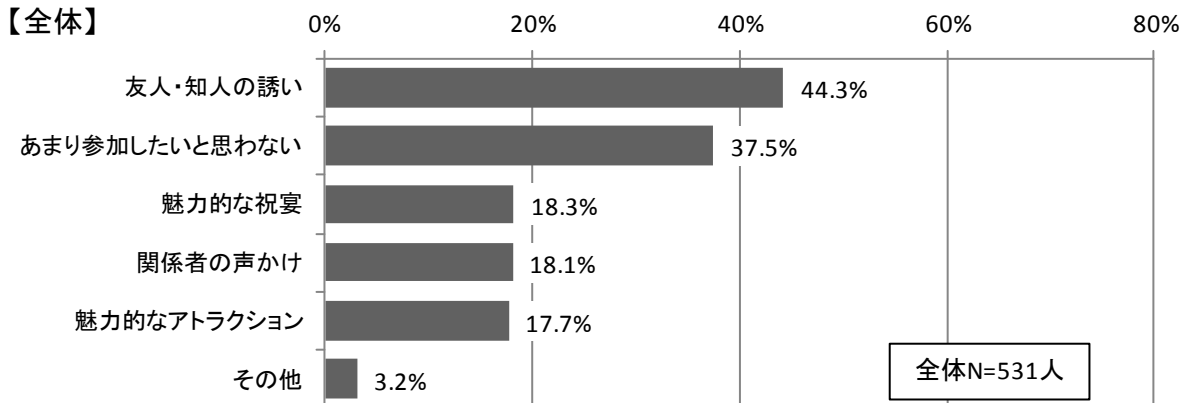
○緊急時の市の情報発信手段について、自宅での防災ラジオの導入に関しては約1/4の方が「必要性を感じない」と回答しており、その約7割が他の情報手段により情報を入手すると回答している。また問2の結果からも、市民の情報入手手段が多様であることが確認できる。このことから、今後も緊急時の市からの情報伝達手段の拡充に努め、あらゆる手段で市民に情報提供できるよう情報発信の体制整備をしていきたい。

3.1.3 敬老の日事業について

(健康福祉部社会福祉課)

- ◆ 調査目的： 敬老の日事業として行っている敬老会や長寿祝金について、高齢化による対象者の増加や敬老会の参加率の低下などを受け、今後の事業の方針を検討するため、幅広い年代のみなさんから本事業に対する意見を調査する。

【問1】あなたは、どのようなきっかけがあると敬老会に参加すると思いますか。
(複数回答可)

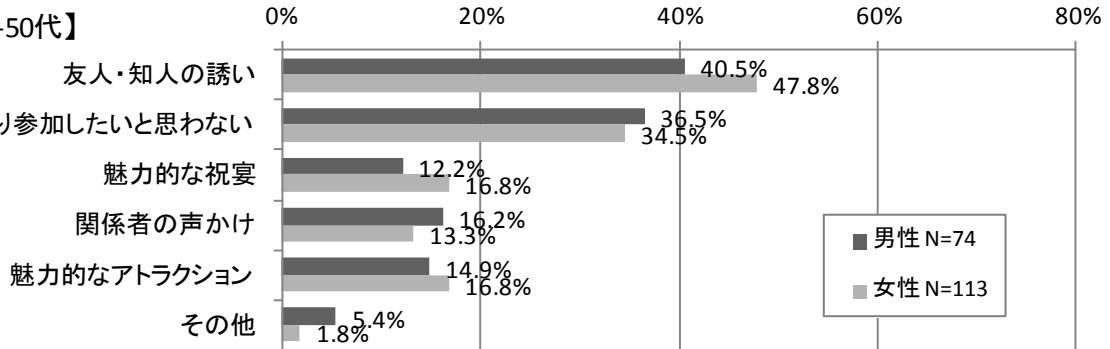


■ その他の回答

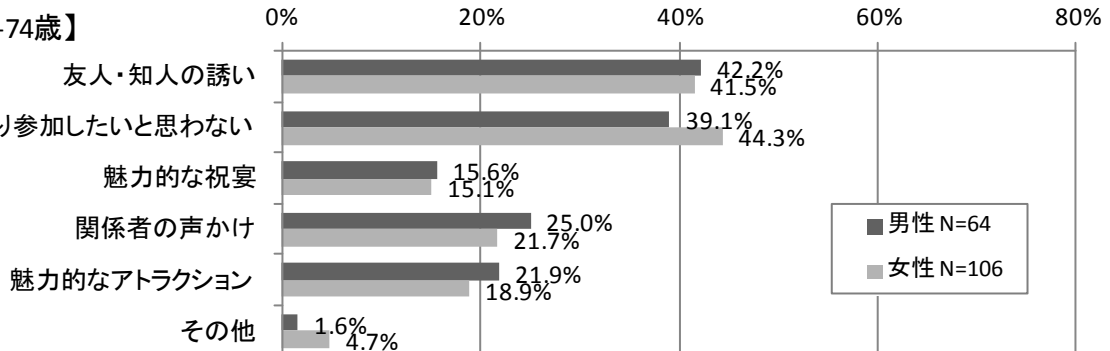
- ・ 規模が大きくなると参加しづらいのでは？ (40代/男性/大曲)
- ・ 地区を細分化した方がよい (65-69歳/女性/西仙北)
- ・ 開催場所が近場 (20代/女性/協和)
- ・ 送迎・交通手段の確保
(20代/女性/中仙、40代/男性/大曲、40代/男性/太田、50代/女性/大曲)
- ・ 車いす移動などの介助 (70-74歳/女性/南外)
- ・ 敬老会という名称の変更 (70-74歳/女性/大曲)
- ・ 祝金 (30代/女性/大曲)
- ・ 自分自身健康であれば (50代/女性/大曲)
- ・ 実感が分からずよくわからない (60-64歳/男性/神岡、65-69歳/女性/大曲)

【年齢層 男女別】

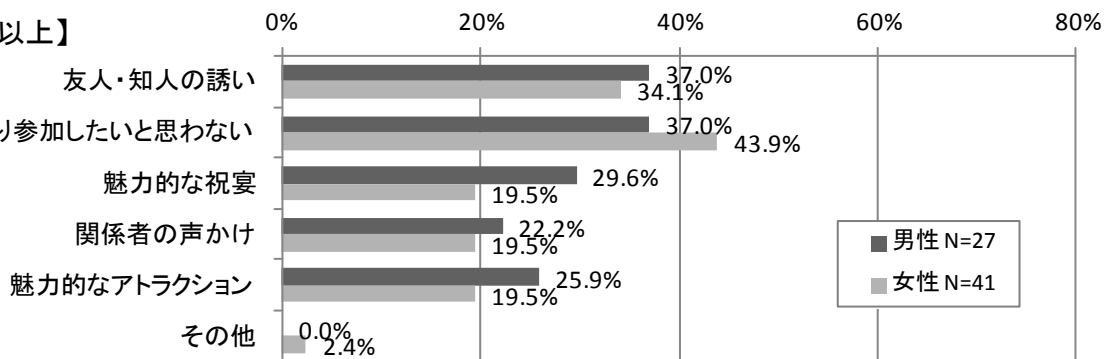
【40代-50代】



【60歳-74歳】



【75歳以上】

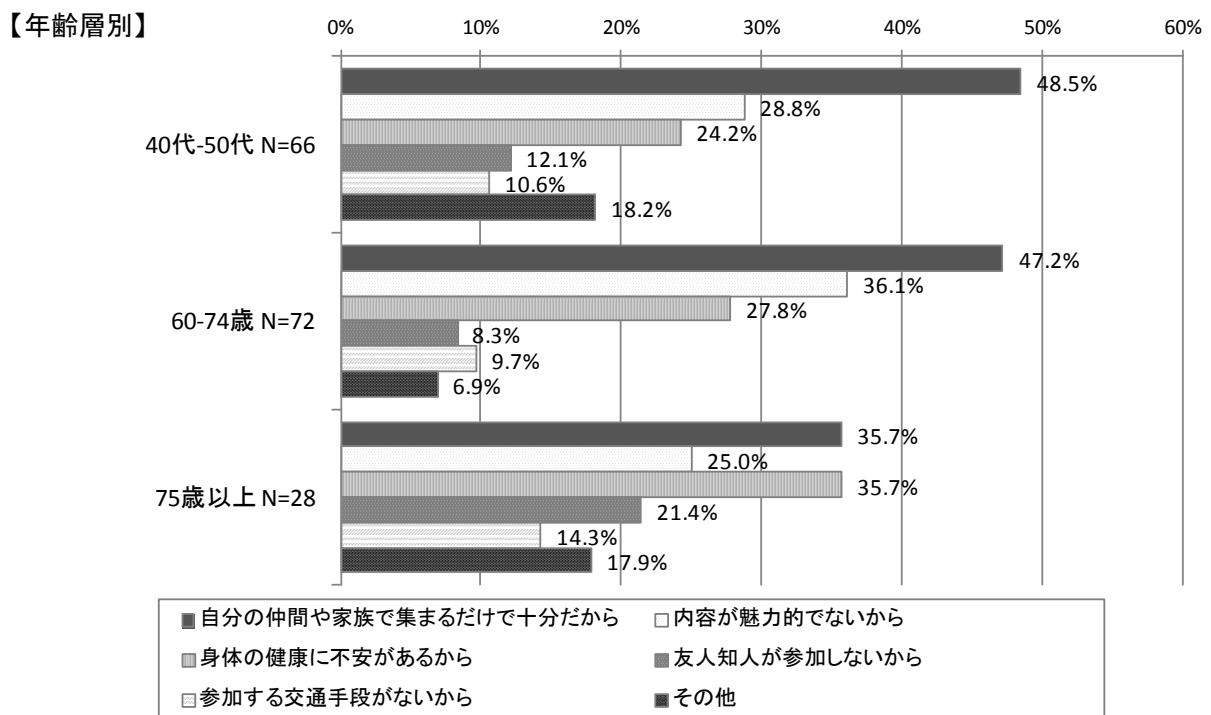
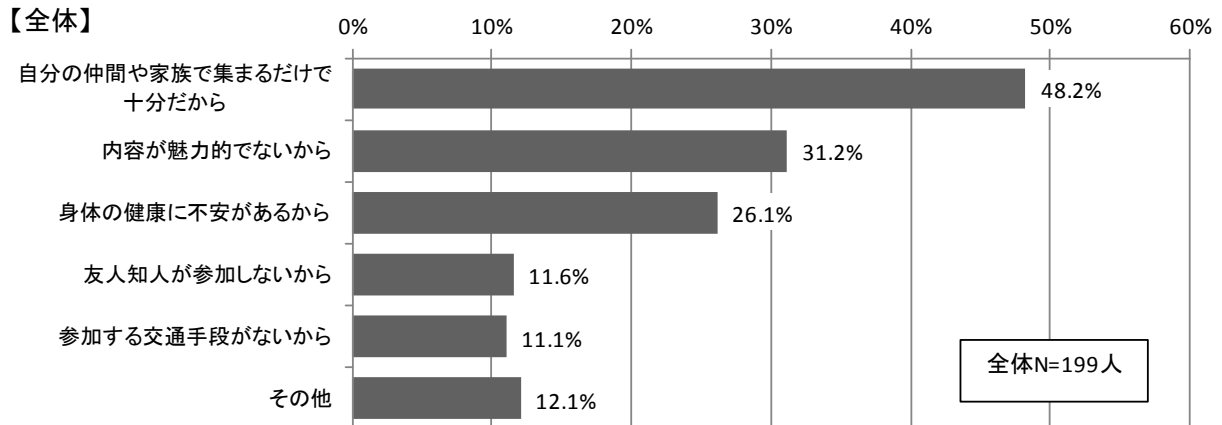


○全体では、「友人・知人の誘い」が最も多く 44.3%、次に「あまり参加したいと思わない」が 37.5%となっている。

○年齢層別で見ると、40代から50代の年齢層では全体の傾向と同様で、「友人・知人の誘い」が最も多く 44.9%、次に多いのは「あまり参加したいと思わない」で 35.3%となっている。

○60歳から74歳までの年齢層では、「友人・知人の誘い」が 41.8%、「あまり参加したいと思わない」が 42.4%で 0.6ポイントの差だが「あまり参加したいと思わない」が上回っている。75歳以上でも「友人・知人の誘い」が 35.3%、「あまり参加したいと思わない」が 41.2%で、「あまり参加したいと思わない」が 5.9ポイント上回っている。

【問1-1】問1で「あまり参加したいと思わない」と回答した理由は何ですか。
(複数回答可)



■ その他の回答

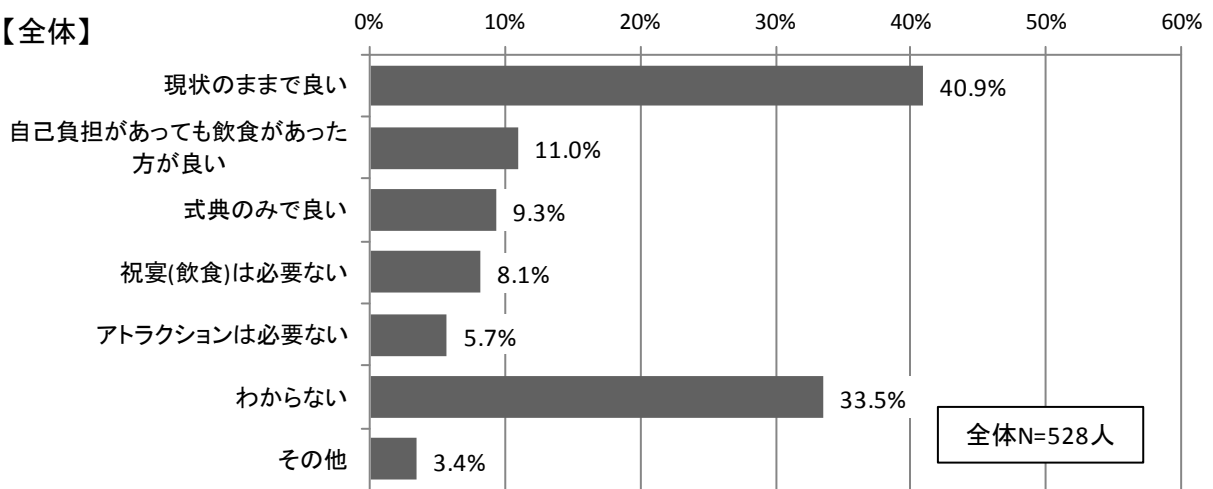
- ・ 必ず出席とか、継続して、とか、しぼりがきつそうだから (40代/女性/仙北)
- ・ 敬老会という名称が嫌 (30代/女性/大曲)
- ・ 高齢になると、内容よりも誰とやるか、だと思ふ。知らない人や慣れない人とは気が引けるのではないかと。現実的ではないが、ある程度強制力がないと参加者は増えないと思う。(20代/女性/大曲)
- ・ 会場の禁煙が確認できていない (75-79歳/男性/大曲)
- ・ お酒を飲まないから (75-79歳/女性/協和)
- ・ 案内をみて判断する (75-79歳/女性/協和)
- ・ 手話が必要だから (65-69歳/女性/中仙)
- ・ 認知症気味で普段から人の集まる所に行きたがらない (50代/女性/太田)
- ・ 嫌だから、面倒だから (40代/女性/大曲)
- ・ (40代/男性/大曲、50代/男性/南外、60-64歳/女性/神岡、60-64歳/女性/大曲)
- ・ (敬老会の) 目的が不明 (50代/男性/大曲)
- ・ 本人でなく周囲の満足にしかになっていないケースが多い (50代/男性/大曲)
- ・ (敬老会は) 必要無いと思う (70-74歳/女性/大曲、75-79歳/男性/中仙)
- ・ わからない (40代/女性/大曲、50代/女性/大曲、50代/女性/大曲)

○全体では、「自分の仲間や家族で集まるだけで十分だから」が最も多く 48.2%、次に「内容が魅力的でないから」が多く 31.2%、「身体の健康に不安があるから」が三番目に多く 26.1% となっている。

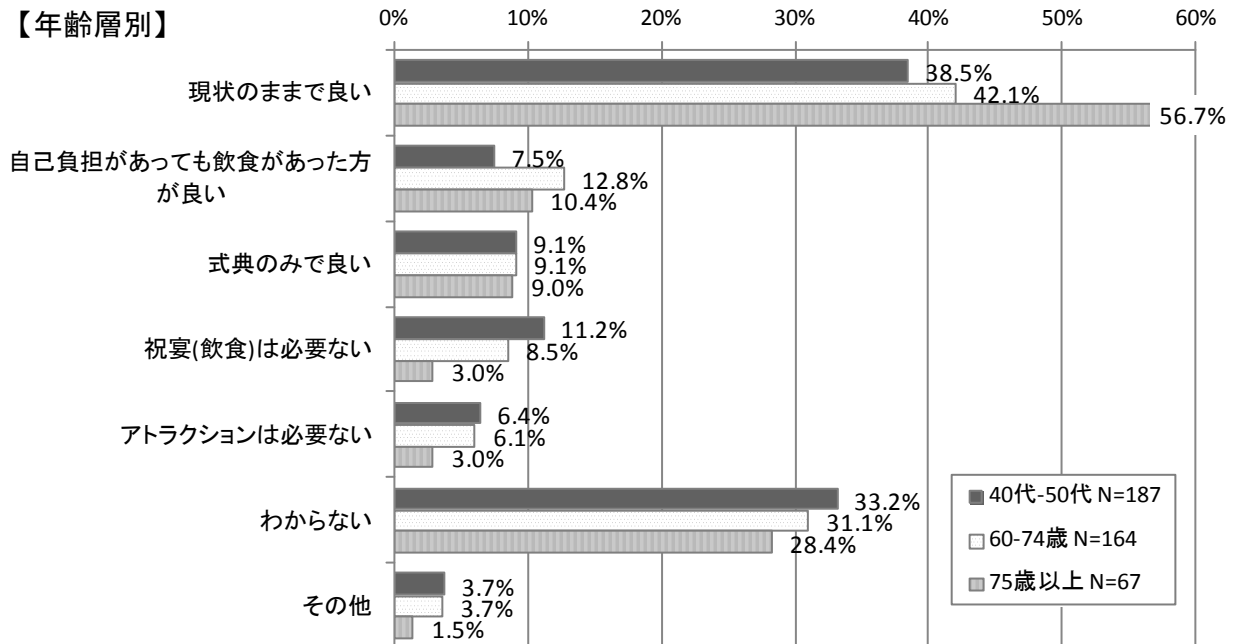
○年齢層別で見ると、40代から50代、また60歳から74歳の年齢層では、回答が多い順に「自分の仲間や家族で集まるだけで十分だから」、「内容が魅力的でないから」、「身体の健康に不安があるから」となっており、全体と同じ傾向だが、75歳以上の年齢層では、「自分の仲間や家族で集まるだけで十分だから」と「身体の健康に不安があるから」が同じ割合で最も多く 35.7%となっている。

【問2】あなたは、敬老会の内容についてどう思いますか。（複数回答可）

【全体】



【年齢層別】



■その他の回答

- ・参加するのが嫌ではないわけではないと思うので、地域の人がフォローしてあげれば良いと思う
(20代/女性/南外)
- ・送迎してほしい(30代/男性/神岡)
- ・鯉の甘煮をつけてほしいです(80代/男性/大曲)
- ・介護食だと食べるものがないのでは(70-74歳/女性/南外)
- ・敬老会は必要ない、必要性を感じない
(40代/男性/大曲、50代/女性/中仙、65-69歳/男性/大曲、70-74歳/男性/協和)
- ・必要ないと思う。在宅や施設でやってあげられるように支援すればいいのでは
(60-64歳/女性/中仙)
- ・なくても良いのでは？又は節目だけにして予算削減し、一時金支給とかに充ててもいいのでは？
(50代/女性/大曲)
- ・式典と記念品だけで良いと思う(70-74歳/女性/大曲)
- ・記念品はいらない(40代/女性/太田)
- ・希望者のみ自己負担の飲食があれば良い(20代/女性/大曲)
- ・内容などわからない
(30代/女性/大曲、40代/女性/大曲、50代/女性/仙北、50代/女性/大曲)

○全体では、「現状のままで良い」が最も多く40.9%、次に多いのは「わからない」で33.5%となっている。

○年齢層別では、いずれの年代も「現状のままで良い」が最も多く、次に「わからない」が多くなっているが、年齢層が上がるほど「現状のままで良い」と回答する割合が高くなり、年齢層が下がるほど「わからない」の割合が高くなっている。

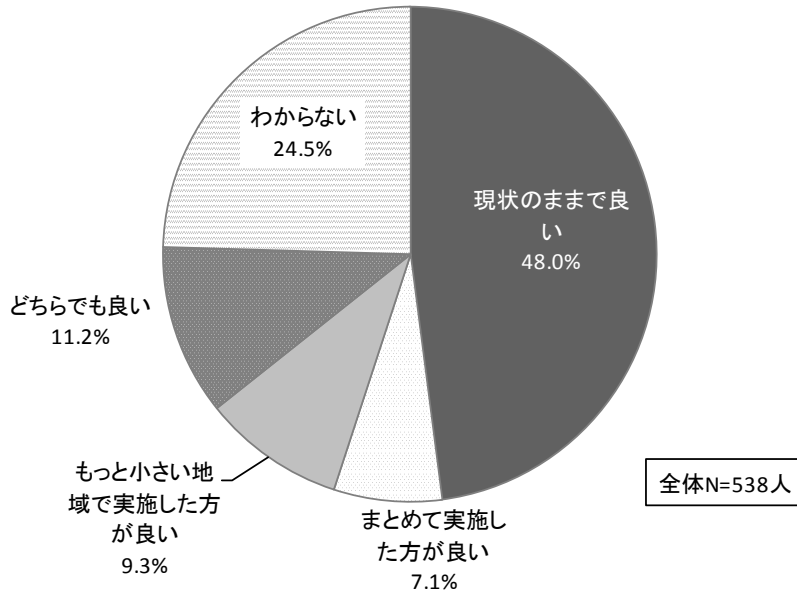
○祝宴(飲食)については、全体では「自己負担があっても飲食があった方が良い」が11.0%、「祝宴(飲食)は必要ない」が8.1%となっている。年齢層別では、「自己負担があっても飲食があった方が良い」と回答した割合が最も高いのは60歳から74歳までの年齢層で12.8%、「祝宴(飲食)は必要ない」と回答した割合が最も高いのは40代から50代の年齢層で11.2%となっている。

○式典について、「式典のみで良い」と回答した方は全体で9.3%となっており、40代以上の年齢層別での回答割合の変化は見られない。

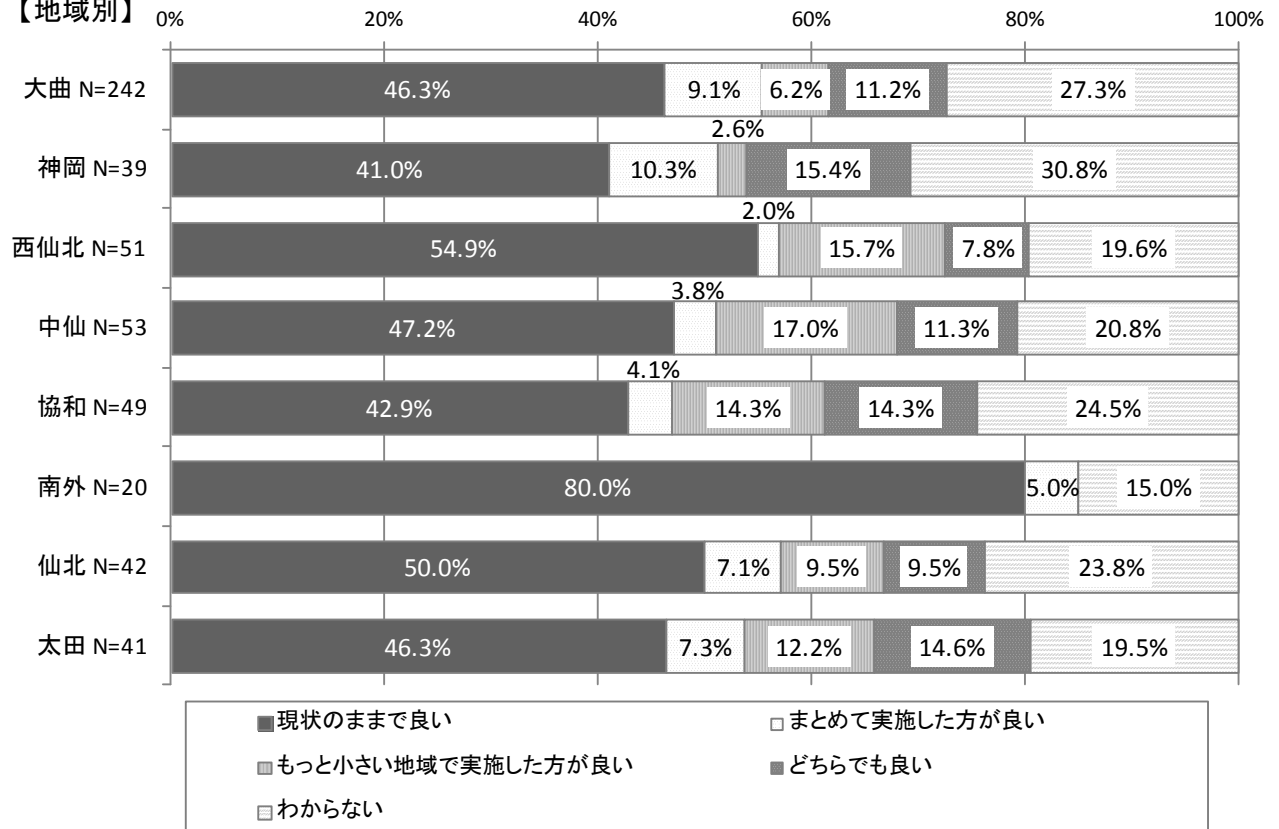
○アトラクションについて、「アトラクションは必要ない」と回答した方は全体で5.7%となっており、40代以上の年齢層別では、75歳以上で最も低く3.0%となっている。

【問3】 敬老会は現在、市内15地区（大曲7、西仙北2、他6地域各1）毎に実施していますが、地区割りについてどう思いますか。

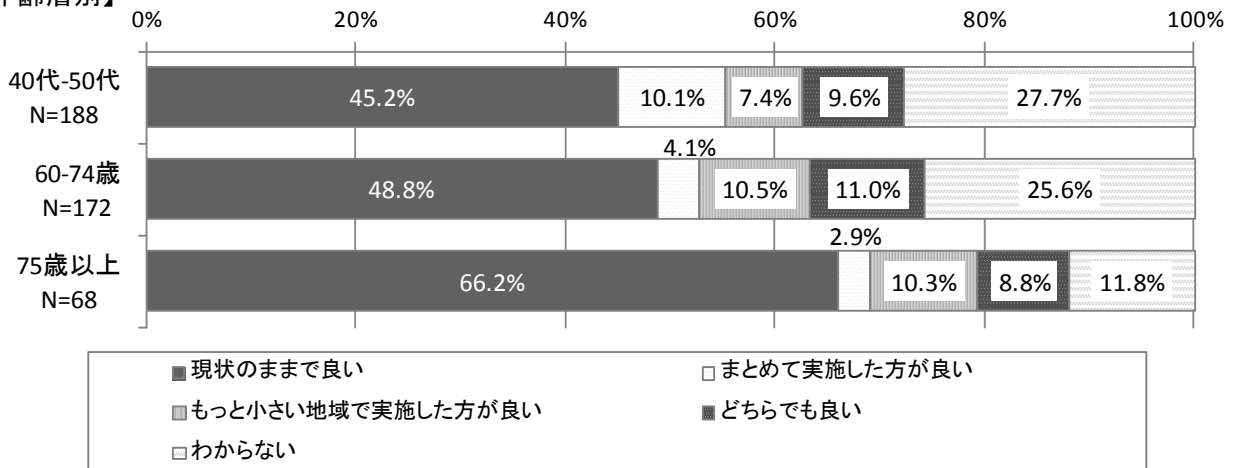
【全体】



【地域別】



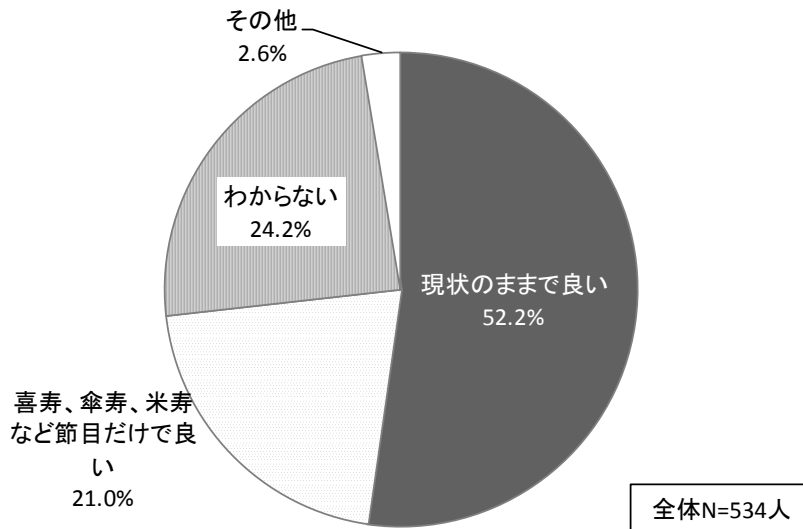
【年齢層別】



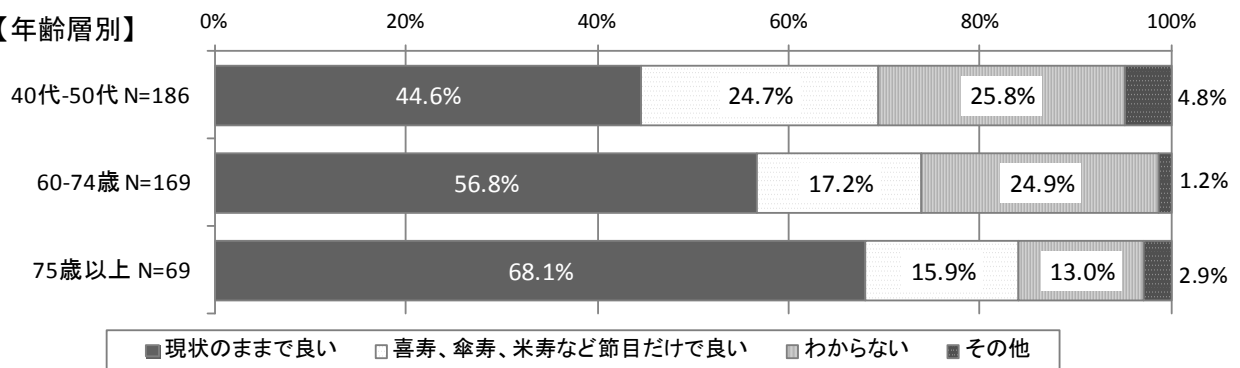
- 全体で最も多いのは、「現状のままで良い」で48.0%、次に「わからない」が多く24.5%となっている。
- 地域別だと、地域によってばらつきはあるものの、各地域とも「現状のままで良い」と回答している方の割合が最も多く、「わからない」が次に多くなっている。
- 地域別で「現状のままで良い」と回答した割合が最も高いのは南外で80.0%、次いで西仙北で54.9%となっている。「まとめて実施した方が良い」と回答している割合が最も高いのは神岡で10.3%、「もっと小さい地域で実施した方が良い」と回答している割合が最も高いのは中仙で17.0%となっている。
- 年齢層別では、「現状のままで良い」と回答した割合が最も高いのは75歳以上の年齢層で、66.2%となっている。「まとめて実施した方が良い」と回答した割合が最も高いのは40代から50代の年齢層で10.1%、年代が上がると割合が低くなり、75歳以上では2.9%となっている。「もっと小さい地域で実施した方が良い」と回答した割合は、60歳から74歳までの年齢層で10.5%と75歳以上で10.3%となっておりほぼ同じ割合で、40代から50代の年齢層では7.4%となっており、若干低い。

【問4】 敬老会は現在 76 歳以上の方全員を対象に実施していますが、このことについてどう思いますか。

【全体】



【年齢層別】



■その他の回答

- 必要ない (40代/男性/大曲、50代/男性/大曲、50代/女性/神岡、65-69歳/男性/大曲、75-79歳/男性/中仙)
- もっと60歳とかからやればよいのでは (40代/女性/太田)
- 70歳からにして下さい。76歳からだ。足が痛いなど。大曲まで行けるか心配 (65-69歳/女性/太田)
- 70歳くらいからでもいい (30代/男性/大曲)
- 65歳からでもいいのでは (50代/男性/協和)
- 年齢を上げてても良い (40代/女性/仙北、50代/女性/仙北)
- 80歳以上でよい (40代/男性/大曲)
- 区切りごとに行い、費用を抑える (50代/女性/中仙)

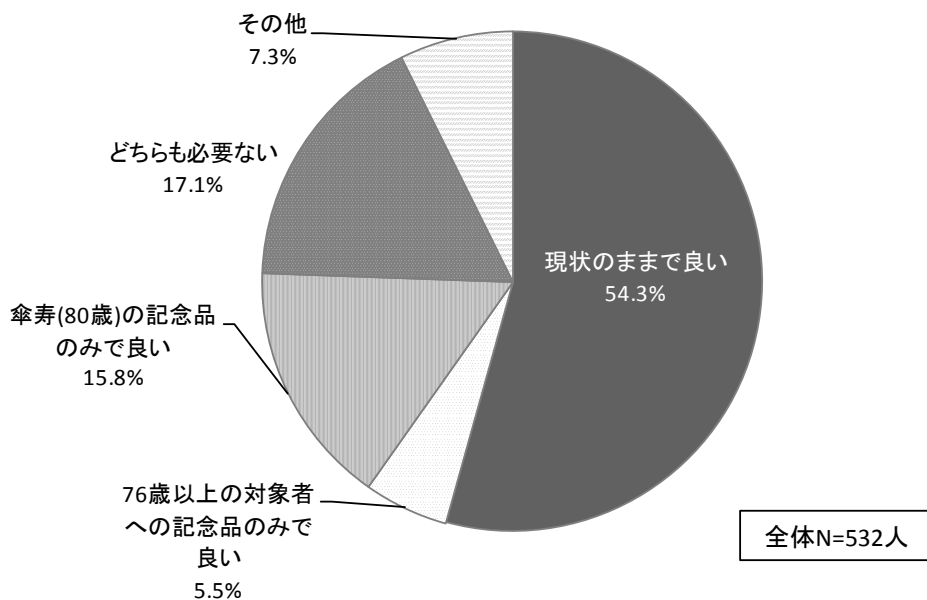
○全体では、「現状のままで良い」と回答した方が最も多く 52.2%、続いて「わからない」が 24.2%、「喜寿、傘寿、米寿など節目だけで良い」が 21.0%となっている。

○年齢層別では、「現状のままで良い」と回答した割合が最も多いのは 75 歳以上で 68.1%、最も低いのは 40 代から 50 代の年齢層で 44.6%となっており、23.5 ポイントの差がある。

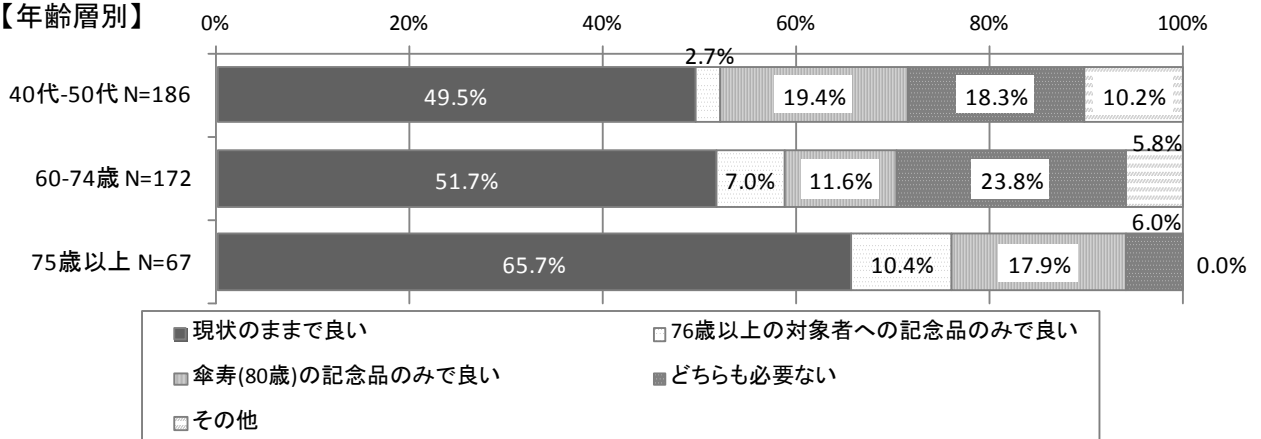
○年齢層別で、「喜寿、傘寿、米寿など節目だけで良い」と回答した割合が最も多いのは 40 代から 50 代の年齢層で 24.7%、「わからない」と回答した割合が最も多いのも 40 代から 50 代での年齢層で 25.8%となっている。「喜寿、傘寿、米寿など節目だけで良い」「わからない」のいずれも、年齢層が上がるほど割合が低くなっている。

【問 5】 敬老会の記念品（現在は 76 歳以上全員に手ぬぐい、80 歳の傘寿となる方に湯飲み）についてどう思いますか。

【全体】



【年齢層別】



■その他の回答

- ・ 記念品を考え直した方がよい (30代/女性/大曲、40代/女性/太田、50代/男性/南外、50代/女性/西仙北、50代/女性/大曲、60-64歳/男性/大曲、40代/男性/仙北)
- ・ もらってありがたいなあと思う品が良い。手ぬぐいなどタンスの奥にしまっていると聞いたことがある。(60-64歳/女性/大曲)
- ・ 別の利用価値のある物が良い (65-69歳/女性/大曲)
- ・ 手ぬぐいはいらぬ。もっと実用的なものか、違うものか。手ぬぐいなら不要。
(30代/女性/大曲)
- ・ 手ぬぐいでなく老人が使う物にしたほうがよい (タオル、シャンプー、リンス、薬入袋)
(65-69歳/男性/大曲)
- ・ 手ぬぐいは使わない (20代/女性/南外、60-64歳/男性/中仙)
- ・ 温泉の入浴券 (50代/男性/大曲)
- ・ クーポン券や温泉入浴券等の方がよい (40代/男性/大曲)
- ・ 商品券など (50代/男性/協和、60-64歳、女性、協和)
- ・ 自分がもらって本当にうれしいものなのか考えてもらいたい。商品券でも良いのでは
(50代/女性/西仙北)
- ・ 手ぬぐいは魅力的でない。大仙市の特産品である味どうらくなどのパッケージを変えて渡してもらった方が嬉しいと思う。(30代/女性/西仙北)
- ・ 大仙市の特産品 (60-64歳/女性/大曲)
- ・ カタログの中から選べるようにする、何個かの中から記念品を選べる (30代/女性/中仙)
- ・ 記念写真 (集合写真) や写真入りの色紙が良いと思う。デイサービス等を利用している高齢者は良い写真がありますが、在宅生活のみの高齢者は正装での写真が少なく遺影選びが大変そうです。(50代/女性/南外)
- ・ 現金がよい (40代/男性/大曲、50代/女性/大曲 2名)
- ・ 毎年違うものかと思う (30代/女性/大曲)
- ・ 節目の歳月に行く (30代/男性/大曲)
- ・ 毎年でなくてもよい (50代/女性/仙北)
- ・ 毎年の手ぬぐいは必要ないと思う (50代/女性/神岡)
- ・ 対象者だけで良い物を (60-64歳/女性/中仙)
- ・ 節目の方へ記念品 (20代/女性/大曲)
- ・ スタンプカードを作って来年も元気に参加する意欲を持たせる (50代/女性/大曲)
- ・ 必要無し (70-74歳/女性/大曲)
- ・ わからない (10代/女性/協和、40代/男性/大曲、50代/女性/大曲、50代/男性/大曲)

○全体では、「現状のままで良い」と回答した方が最も多く 54.3%、次に多いのは「どちらも必要ない」で 17.1%となっている。

○年齢層別では、いずれの年齢層でも「現状のままで良い」が最も多く、年齢層別で「現状のままで良い」と回答する割合が最も高かったのは 75歳以上で 65.7%となっている。

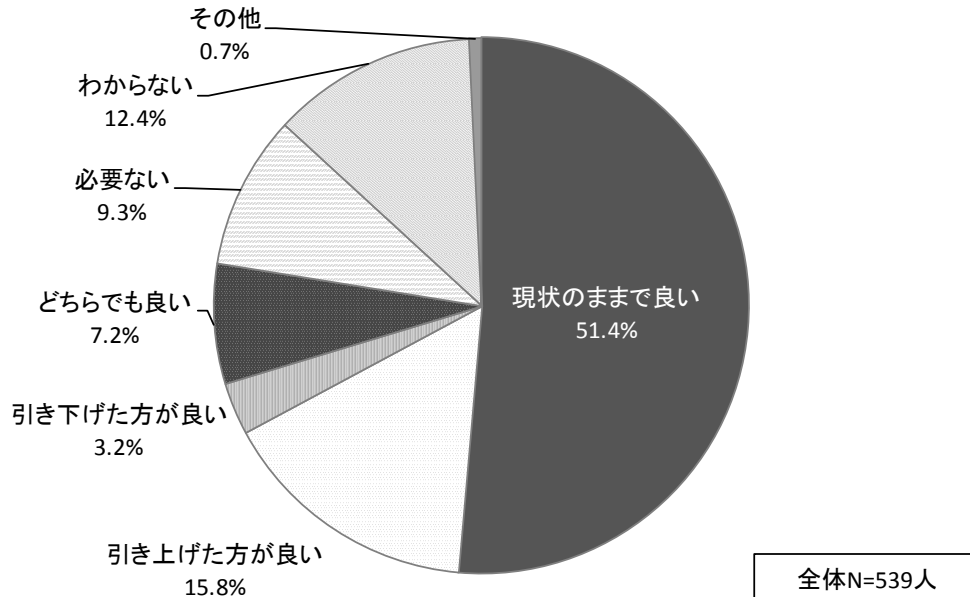
○40代から50代の年齢層では、「現状のままで良い」の 49.5%が最も多く、続いて「傘寿(80歳)の記念品のみで良い」で 19.4%、「どちらも必要ない」で 18.3%となっている。

○60歳から74歳までの年齢層では、「現状のままで良い」の 51.7%が最も多く、続いて「どちらも必要ない」で 23.8%、「傘寿(80歳)の記念品のみで良い」が 11.6%となっている。

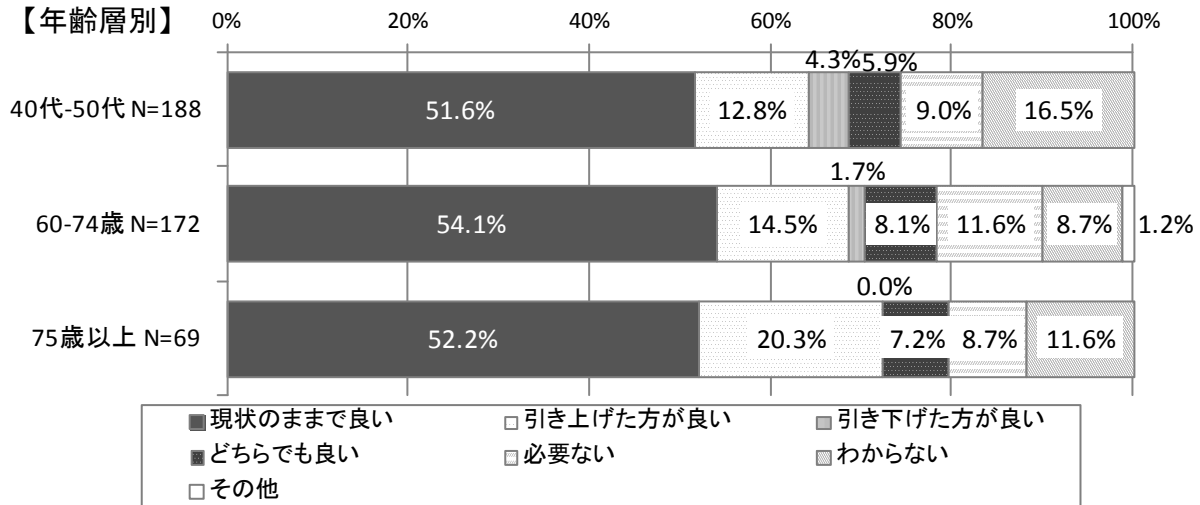
○年齢層別で、「どちらも必要ない」と回答した割合は、60歳から74歳までで最も高く 23.8%、75歳以上で最も低く 6.0%となっており、17.8ポイントの差がある。

【問6】市の長寿祝金の額（100歳：20万円（施設入居者は10万円）、88歳：2万円）について
どう思いますか。

【全体】



【年齢層別】



■その他の回答

- ・ 100歳10万、88歳8万（30代／女性／中仙）
- ・ 88歳は必要ない、100歳は現状で良い（60-64歳／女性／西仙北）
- ・ 88歳は引き上げた方がいい（20代／女性／神岡）
- ・ 在宅と施設を分けることをやめるべき（65-69歳／女性／大曲）

○全体では、「現状のままで良い」が最も多く 51.4%、次に「引き上げた方が良い」で 15.8% となっている。

○年齢層別では、40代から50代、60歳から74歳、75歳以上のいずれも「現状のままで良い」が最も多く、回答率は 51.6%から 54.1%とおおむね同じ割合となっている。

○「引き上げた方が良い」は年齢層が上がるほど割合が高く、75歳以上では 20.3%となり、最も低い 40代から50代の年齢層の 12.8%と 7.5ポイントの差がある。

【問7】市が行っている敬老の日事業（敬老会・長寿祝金）について、ご意見などをご自由にお書き下さい。

敬老会について

- 参加者が減っているようですが、一人暮らしの方などで敬老会を楽しみになさっている方もいるかもしれません。実際に76歳以上の方にアンケートをとるなどして意見を聞いてみるのもいいかもしれませんね。（40代/女性/大曲）
- 働くことができなくなったら皆が老健へ入れるようになれば、敬老の日の事業も参加する人が増えるのでは。（40代/女性/太田）
- 敬老会等一部の方々の負担は大きくないだろうか。老人をあてにしすぎ。もう少し、市の職員の手伝いがあっても良い。（20代/男性/太田）
- 市内15地区で行われているのであれば、あえて、子供たち（孫たち）のいる小学校中学校を会場に交流も含めて祝うことで参加人数の増加と子供たちとの交流をとした優しく強い心を育む事業となるのではないだろうかと考えます。（30代/女性/中仙）
- 若者も参加させて交流するのはどうですか？（50代/男性/大曲）
- 主人の両親は、一度もこの事業に参加したことがありません。（共に80歳以上で健康です）このような事業ではなく、若い方に必要な事業にお金を使ってもらいたいと常々申しております。生きていることに感謝することは大事なことです。事業していただくことが「あたりまえ」と考えている方が多いことが残念です。私自身も敬老会に参加したいとは思っておりません。（50代/女性/神岡）
- 健康面、経済面でも差がついているし、人の少ない地域ほど疎外感があるので参加しにくい。（80代/女性/太田）
- 自治会ごとに行きたい。（少しの補助金と参加会費ではどうか）（80代/男性/地域不明）
- 地域ごとに行った方が参加しやすいと思う。（50代/女性/中仙）
- 送迎バスの段差が高く、足腰の弱くなった老人には乗り降りが容易ではありません。乗り降りしやすい乗り物なら参加する人も増えるのではないのでしょうか。（50代/女性/太田）
- 夫婦で参加するのが楽しみです！（80代/男性/大曲）
- 参加者の年齢は引き上げないで欲しい。多分、楽しみに初の出席を待っている方もいるのでは。（50代/女性/協和）
- 敬老の日楽しみにしている。（80代/女性/協和）
- 76歳から参加させてもらっています。元気で長生きして敬老の日を待っています。飲食もいただきました。有り難うございます。今年も敬老の日を待っています。（80代/女性/中仙）

- 敬老会を祝う方々が年配者なのが気の毒です。(40代/女性/西仙北)
- 曾祖母が友人に誘われ毎年行っています。高齢になると誰かから誘われないと行かないと話していました。参加率の低下と言っていますが、人数が多くて部屋に入ると動けなくなると話していました。事前に集計をとった方がいいのではないのでしょうか。(30代/女性/大曲)
- 敬老会をどうしても続けて行かなくてはならないとなると、だらだら？やっているより節目のときだけでいいと思う。あとはいっこうにやらないとか。(60-64歳/女性/神岡)
- 父が76歳になりましたが、認知症気味で普段から人の集まる所には行きたがらず、母が連れ出してようやく外出するくらいなのでまして一人では行かないと思います。せっかく集まるなら自己負担があっても飲食があった方がよいと思いますが、人が来ないなら無理して続けてやらずともいいと思います。金婚式には喜んで参加していたので、喜寿、傘寿、米寿など、節目でのご招待なら、うれしくもありません。記念品については、物にあふれた世の中なので、現在のものならいらなくもありません。(50代/女性/太田)
- 記念品は、敬老会に行かれた76歳だけでいいと思う。(80代/女性/大曲)
- 自分の友人や家族で集まってお祝いしようと思っているので、敬老会は不要だと思っています。(40代/男性/大曲)
- 来賓の方のあいさつが多く、長い。高齢者になるといやになる。最近はずっと出席していない。(80代/男性/協和)
- 会場によって座る場所もあったりするようですが、参加人数に合わせて宴会場とかを利用し、イス席の方が良いと思う。(50代/女性/中仙)
- 参加できない人もいるので考えて欲しい。(車いすや障害の利便性が悪い)
(75-79歳/女性/西仙北)
- 出席できない人にはどうしているのでしょうか。家族に気を遣い遠慮して楽しく食べられていない人もいる。この日ばかりは弁当とお茶、お祝いの日本酒1本でもあれば喜ぶと思う。
(70-74歳/女性/太田)
- 一緒に行く人がいないとか場所が遠いとか、身体の具合とか、いろいろあると行かない。近場で知っている人がいると又考えが変わると思うが、元気で金がある人は別だが年をとっていくとまた行くのが億劫になると思う。(75-79歳/女性/大曲)
- 時代とともに敬老の考えも変わってきているので、昔と同じ形での式典の必要性が薄くなってきていると思う。また、近隣の付き合いが希薄になり、一人で参加しようとする人は少ないと思う。
(30代/男性/大曲)
- 敬老会式典の開催は意義のあることと思いますが、高齢になる程出席できる方が少なくなるでしょう。形だけの記念品は不要かと思います。(50代/女性/仙北)
- 参加に意義あり。(65-69歳/男性/大曲)
- 昔に比べて元気な方が増えている。76歳以上でも車を運転し、グランドゴルフにも行き、買い物にも行く。そんな方は年寄りだけど年寄り扱いしてもらいたくないから敬老会には参加しない。今年76歳で9月にはお知らせが来るが行かないだろう。もしかしたら自分の親世代の方と敬老会が一緒だったと考えれば、行かないと思う。楽しみにしている方々もいるだろうから、会は続けていってください。(40代/女性/仙北)
- 参加率が「4分の1」で良いと思う。「率」をあげたいのは市側の目線。みんなに参加して欲しいのなら率25%のイベントをいろいろな方面で4つやればいいのではないか。(50代/男性/大曲)
- 施設に入っている人もいるし、誰かに付き添ってもらわないと行けない人もいるので、参加率が低下しているのは仕方がないのではないか。(40代/女性/仙北)
- 参加したことが無いのでよく分からない。(60-64歳/男性/大曲)
- 今年から敬老会への参加年齢となりわかりません。(75-79歳/女性/太田)
- 敬老会の様子など近所に聞く方がおらずよく分かりません。(50代/女性/大曲)

- ここ数年は家族に76歳以上がおらずよく分かりません。ただ、参加のためのバス待ち等の方々を見ると、楽しそうな様子は伝わってきます。(50代/女性/南外)

長寿祝金について

- 長寿祝金はもらえば嬉しいだろうが、高齢化が進む中、その額を市の財政から捻出するのはこのご時世厳しいのではないですか？大雨被害の跡もまだ目に見えて改善されていない現状です。(20代/女性/南外)
- 長寿祝金の額が少なすぎる気がします。昔はもっと高かったのでは。(30代/女性/大曲)
- 長寿になっているが、88歳は別にいらなと思う。ほとんど本人でなく家族のお金になっているから、あまり意味がないように思える。(30代/女性/大曲)
- いただいても家族が取り上げたりすると聞いたことがあります。生活用品とかが良いのでは。(60-64歳/女性/大曲)
- 長寿祝金は10万~15万くらいで良いと思う。(10代/女性/大曲)
- 祝金について 記念品ぐらいにしたらよいのではないか。(70-74歳/男性/大曲)
- せっかく長生きしてくれている事だし、めでたいので、長寿祝金は引き上げて、また活力になれるようにした方がいいのでは？(60-64歳/女性/協和)
- 育児手当はどのように使われているかわからないが、老人は生活費や医療などに使えるので祝金はUPしても良いと思う。(60-64歳/女性/中仙)
- お祝いされるべき方のために使われず、周りの方が使われるケースが気になります。(50代/男性/大曲)
- 施設入所者の差額はなぜか？祝金はなぜ88歳と100歳か？(50代/男性/大曲)
- 私が知っているのは100歳で100万円と聞いていました。20万とのことですが、本人の長生きもありますが、家族にもご苦労様の気持ちで50万にして頂きたい。(65-69歳/女性/太田)

事業全般について・その他

- 市が行っていることを知らなかった。もう少し発信が必要なのではと思います。(30代/男性/大曲)
- もうちょっと周知が必要かと思う。実際、「敬老の日事業」の内容については、初めて知りました。(20代/女性/大曲)
- 高齢化に伴い負担が大きくなると思われるので、規模の縮小が望ましいと思う。(40代/男性/仙北)
- そもそも敬老会へ参加している人としていない人との差、地域での差が出るのは、税金の使われ方として不公平だと思います。市全体で祝い金だけでよいのではないのでしょうか。(40代/女性/仙北)
- 今後敬老対象者は年々増えると思いますので、少しずつ見直しをする必要があると思います。(記念品、祝金など) (65-69歳/女性/大曲)
- 現状のままで良いと思う。(75-79歳/男性/大曲)
- 高齢者が年々増え予算も大変でしょうが、それを楽しみに参加している人も多いと思うので、是非継続して実施してほしいと思います。(60-64歳/女性/大曲)
- 予算が無いのなら公表し中止するべきだが、その分職員、議員の給与UPになるのは反対である。(60-64歳/男性/大曲)
- 普段から老人を敬う市政であって欲しいですし、敬老の日事業は国民の祝日の一環として行うイベントであって良いかと思います。(50代/女性/西仙北)

- 現状のままで良いので、よろしくをお願いします。（80代／男性／大曲）
- すばらしい事業だと思います。でも、どうせなら、1日のイベントよりも、1泊2日の温泉でゆっくり人生のアカを落とし、心豊かに「御苦労様」という意味で、お茶した方がよい思い出になるのではないのでしょうか。（数回に人数分けて、地元の温泉利用）（60-64歳／女性／西仙北）
- 記念品や祝金はお祝いされる側はとても嬉しいと思います。義父が敬老会へ行っているようです。毎回いろいろな所へ行っていると思います。おいしいものを頂いていろいろ連れて行ってもらって楽しそうです。私もまだ30年ほどありますが、身体が元気であれば是非地域の方々と交流したいなと感じております。（40代／女性／大曲）
- 楽しみにしている方もいると思います。詳しい内容は分かりませんが、続けて行って欲しいと思います。（60-64歳／女性／協和）
- なくてもいいと思いますが、楽しみにしている方もいますので現状のままで続けては、と思います。（60-64歳／女性／大曲）
- 金品でお祝いする時代は終わったと思います。（75-79歳／男性／中仙）
- もっと若い人にお金をかけてほしい。（60-64歳／男性／大曲）
- 敬老の日事業についてあまり関心がなかったのですが、これからは強い関心を持ちたいと思います。（75-79歳／男性／大曲）
- 予算について、金額を決めた方がいいと思う。（70-74歳／女性／仙北）
- 参加したことがないので正直回答できない。過去の資料を参考にすると、この事業自体、全体的に見直して良いと思う。（75-79歳／女性／協和）
- 市の財政を考えたら負担が増すだけだと思う。若者の定住のために使うべき。（50代／男性／太田）
- 敬老の日の事業の必要性は感じるが、飲食を伴う経費はどこから出てきているのだろうか。飲食を伴うのであれば、当然個人負担は必要であると考え。もちろん個人差があり、十分な配慮は必要なことではあるが、極端な例えとして生活保護を受けていたとしても学童の通学の見守り、部落内の清掃など地域の活動に対してポイント化してみたり、山菜等の販売で部落内の活動費から補てんできるシステムを考えると、ただ長生きをしたから祝うのではなく、地域に必要な存在で有り続けていてくれることに感謝と敬意を払う日としたい。（60-64歳／男性／大曲）
- ただでさえ医療費を圧迫している高齢者に税金を使う必要はない。使うのなら子どもに。高齢者に何か贈り物をするのなら、家族を伴っての教習所での安全運転講習チケットがよい。どのくらい危険な運転をして、他人に危害を加える恐れがあるのか家族に実感してもらいたい。全国で多発している高齢者による事故は他人事ではない。（30代／女性／大曲）
- これからどんどん長寿社会になる現状で、市に予算が無いなら、無理に続ける必要はないと思う。もっと別の事で長寿者に還元したほうが良いと思う。（50代／女性／大曲）
- 若者達にとっては、今の時代、苦痛と思えるのでは？（50代／男性／協和）
- 祝金をあげても、本人以外の人にかけているようでおもしろくない。記念品はこんなものだったり、カネの方が良かったと言っている。こんな弁当ならこない方がましだとも言っている。（60-64歳／女性／中仙）
- 今現在はこのままで良いと思うが、今後老人が増え、若い人達が減っていることもあり、この先が不安だし今後見直しは必要かと思う。（50代／女性／大曲）
- 高齢化社会、特別視する必要はない。（50代／女性／西仙北）
- 近い将来、現行通りで行くと、老齢の方が増えすぎて式典は別にしても祝金の方が大変になりますので、その対策を市だけの問題にせず、国県レベルで考えていくべきではないでしょうか。（75-79歳／男性／神岡）
- 参加者の市に対する声、社会に対する声を聞きたい。（30代／女性／大曲）
- 今後高齢者が多くなっていくのに、記念品等に税金を使って、今後どうしていくのですか？（30代／男性／神岡）

- 敬老会では弁当はあってもいいが酒は必要無い。楽しいからだろうが悪酔いする方が多い。祝金は本人のものになるより家族のためにしかならない。現金よりも物（紙おむつ等）にした方がいい。（40代／男性／大曲）
- もっと盛り上げていこうぜ！！（20代／女性／中仙）
- 良いと思う。（50代／女性／協和）
- まだ敬老会に入る年齢までは時間があるが、お年寄りの考え方にも個人差があるので、難しいと思う。80代90代でも、常に向上心を持って生活している方もいれば、アトラクショナルな楽しいことだけを求めている方もいるのではないか。デイサービスに通っている方でも、相当な考え方の差があると聞いている。（65-69歳／女性／神岡）
- 今まで続けてきたことを今更変えることは大変だと思うので、このままの方が良いと思います。祝金は、在宅の人には見てくれる家族がいるので家族のためにも多くしても良いのではないのでしょうか。（65-69歳／女性／太田）

◆調査結果まとめ及び今後の方針

- 近年の敬老会への参加率は減少傾向にあり、平成29年度においては、23.9%であった。調査結果からも、全体では「友人・知人の誘い」があれば参加したいと思うと回答した方が多いものの、60代以上になると「あまり参加したいと思わない」方が多いという結果となった。不参加の理由としては、「自分の仲間や家族で集まるだけで十分だから」、続いて「敬老会の内容が魅力的でないから」という回答が多かった。また、75歳以上になると身体の健康に不安があり参加したくない方が多くなっている。一方で、敬老会（式典・地区割り・祝宴の内容）、長寿祝い金については、いずれも現状のままで良いという意見が約半数で最も多い。
- 敬老会は、長寿をお祝いする機会として毎年市主催で行ってきたが、本調査では、毎年楽しみにしているという意見がある一方で、必要ないという意見もある。来年度に向け各年代の市民の意見を参考に、敬老会のあり方を含めて全般について見直ししていく。

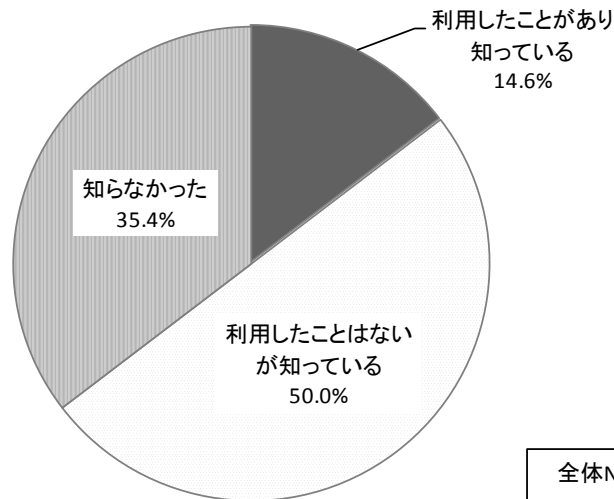
3.1.4 住宅リフォーム支援事業について

(建設部建築住宅課)

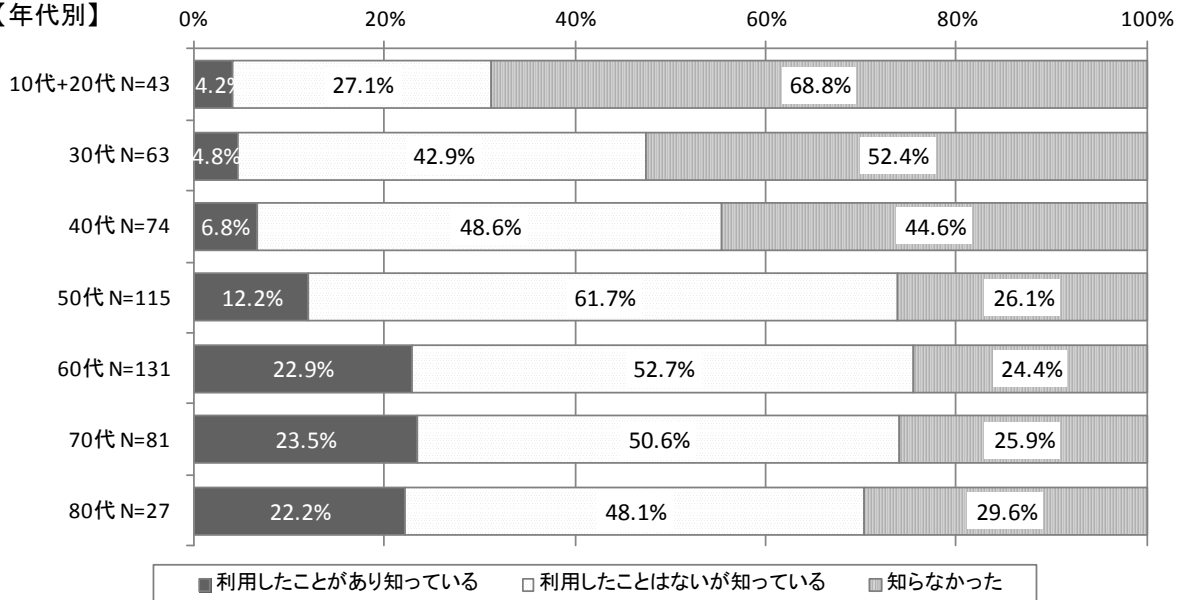
- ◆ 調査目的：「住宅リフォーム支援事業」が平成21年の事業開始から10年目を迎えることから、今後の事業の方向性を検討するため、認知度や市民の意識を調査する。

【問1】住宅リフォーム支援事業について、この事業があることを知っていましたか。

【全体】



【年代別】



○全体では、「利用したことはないが知っている」が最も多く50.0%、次に多いのは「知らなかった」で35.4%となっている。「利用したことがあり知っている」と「利用したことはないが知っている」と回答した方は全体で64.6%となっており、6割以上の方が本事業を知っている結果となっている。

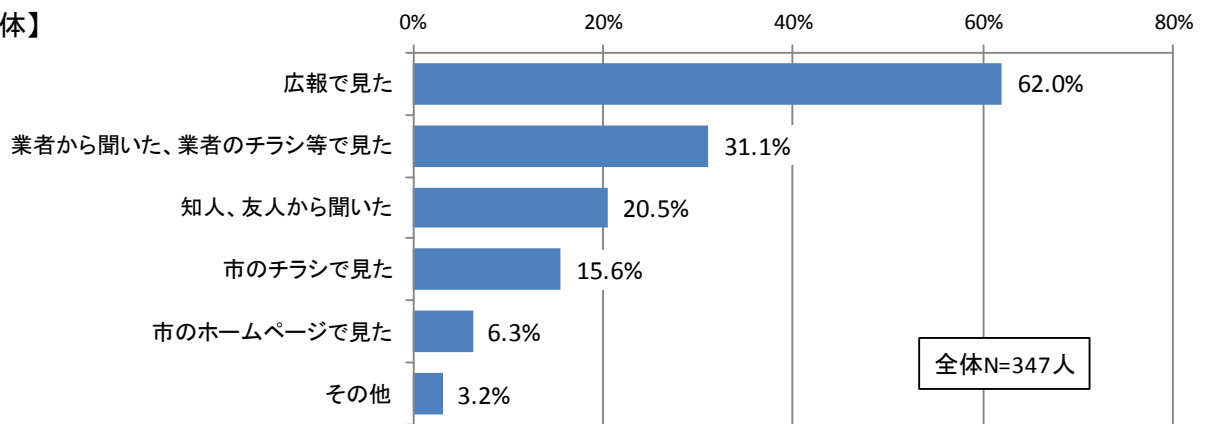
○年代別では、10代と20代を合わせた年代と、30代の世代では「知らなかった」が最も多くなっているが、40代以上の年代では「利用したことはないが知っている」が最も多くなっている。

○年代別で、「利用したことがあり知っている」は、年代が高くなると割合が高くなる傾向があるが、50代の12.2%に対し、60代で22.9%、70代で23.5%、80代で22.2%と、60代から20%を超えている。

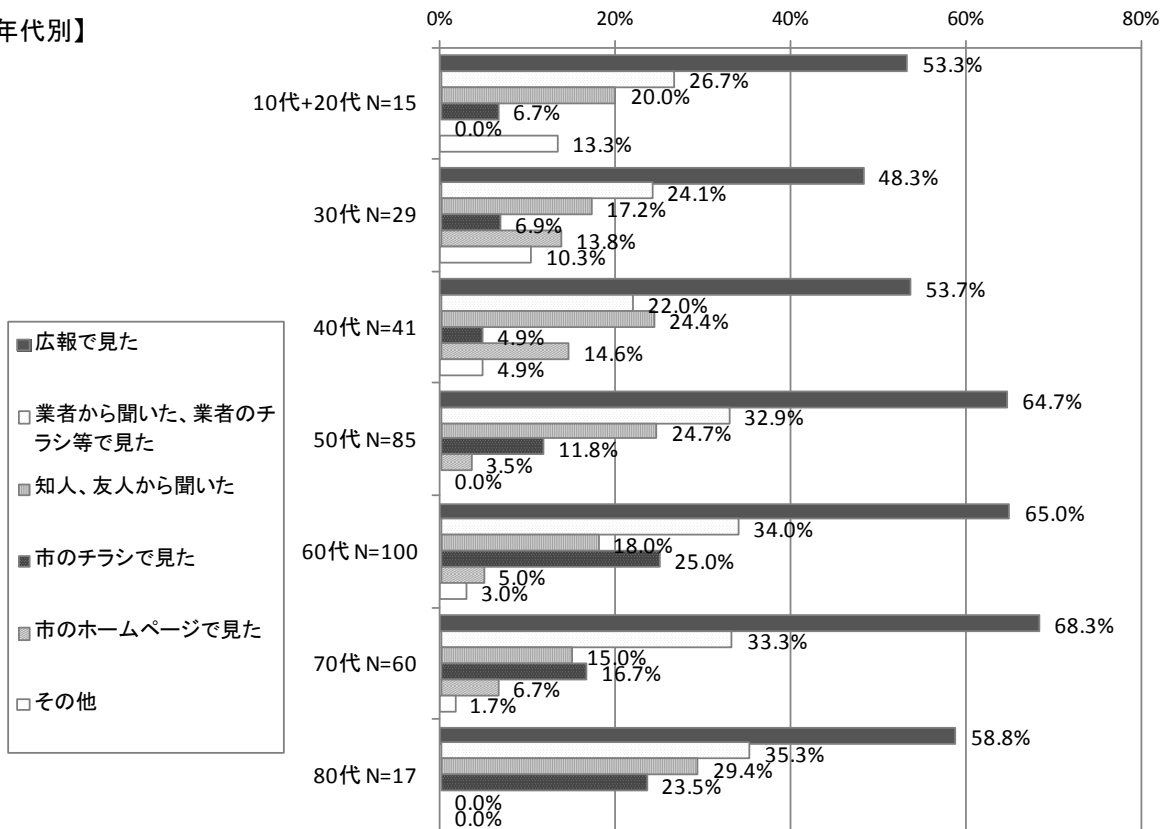
【問1-1】この事業をどのようにして知りましたか。（複数回答可）

（問1で「利用したことがあり知っている」「利用したことはないが知っている」方）

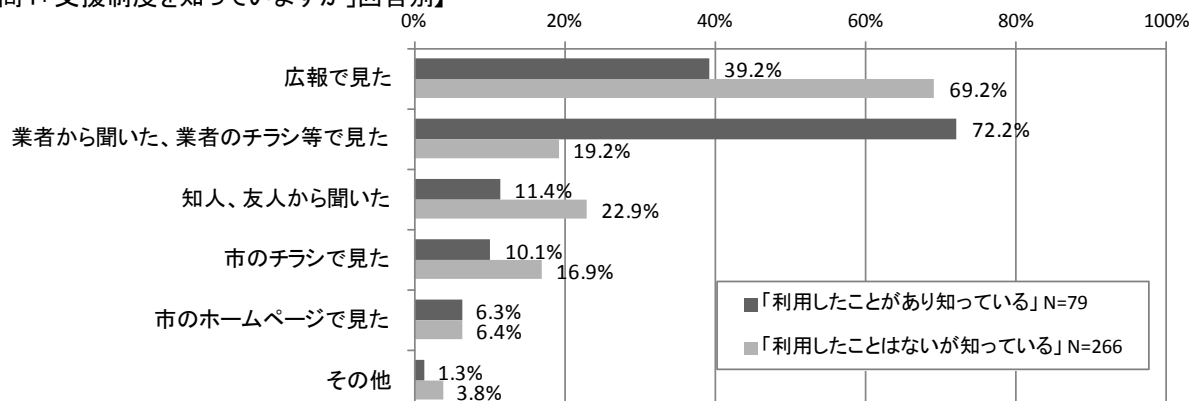
【全体】



【年代別】



【問1「支援制度を知っていますか」回答別】



■その他意見

- ・ 県の支援事業を活用した (60代/男性)
- ・ 問い合わせした (40代/女性)
- ・ 行政から聞いた (20代/女性)
- ・ 資格のため勉強で覚えた (30代/女性)
- ・ 職場 (30代/女性)
- ・ 家族・親族から聞いた (20代/女性、30代/女性、40代/女性)
- ・ 町のお知らせで郵便物が届いたことがある (70代/女性)
- ・ ケアマネージャーから聞いた (60代/女性)

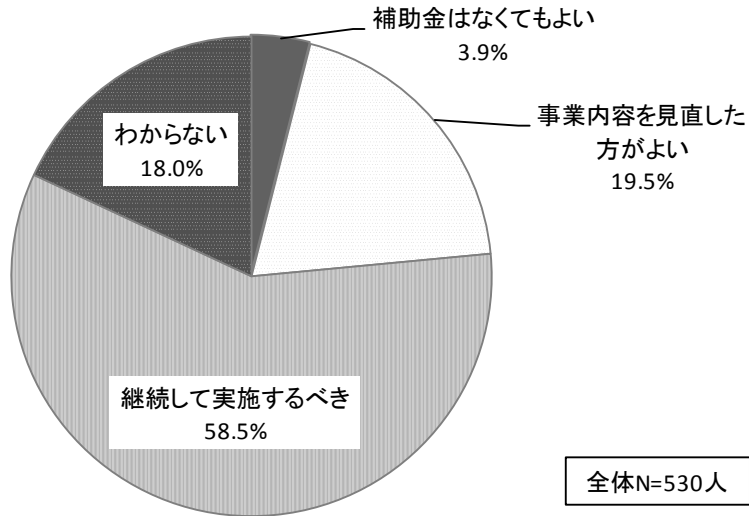
○全体では、「広報で見た」が62.0%で最も多く、次に「業者から聞いた、業者のチラシ等で見た」が多く31.1%となっている。

○年代別でも、40代以外の年代では全体と同じく「広報で見た」、「業者から聞いた、業者のチラシ等で見た」の順となっているが、40代では、「広報で見た」が53.7%で最も多くなっている次に、「友人、知人から聞いた」が24.4%で多くなっている。

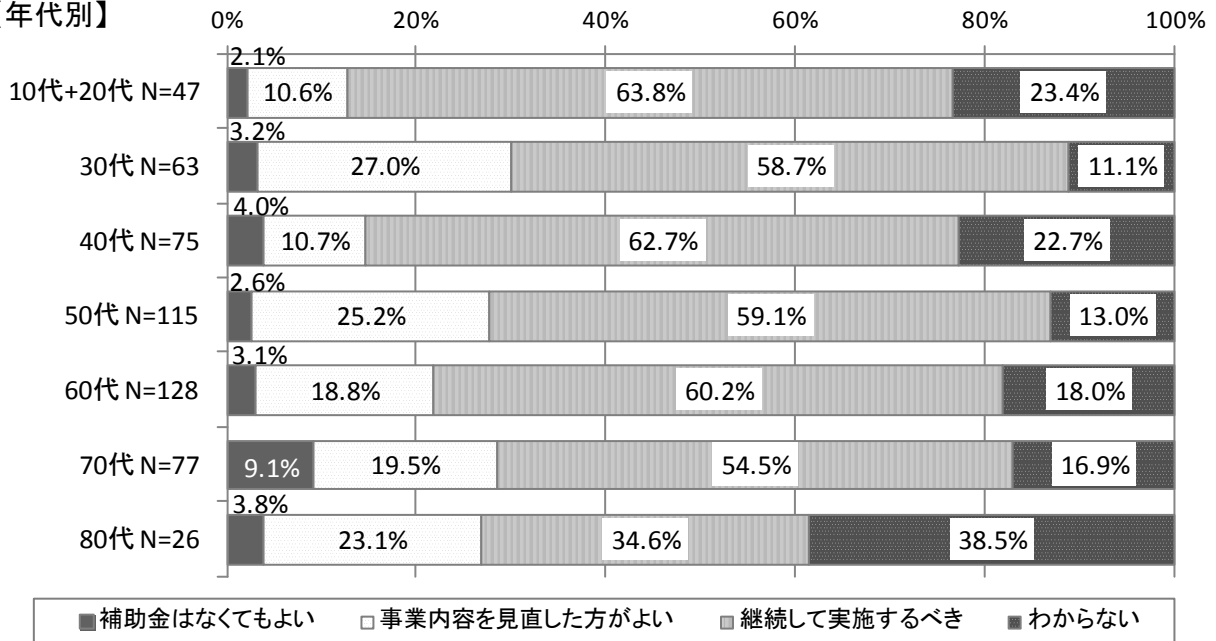
○問1の「支援制度を知っていますか」の回答別で、「利用したことがあり知っている」と回答した方は全体の傾向と異なっており、「業者から聞いた、業者のチラシ等で見た」と回答した方が最も多く72.2%、「広報で見た」と回答した方が39.2%で33ポイントの差がある。

【問2】リフォーム工事に対する市の補助金について、どのようにお考えですか。

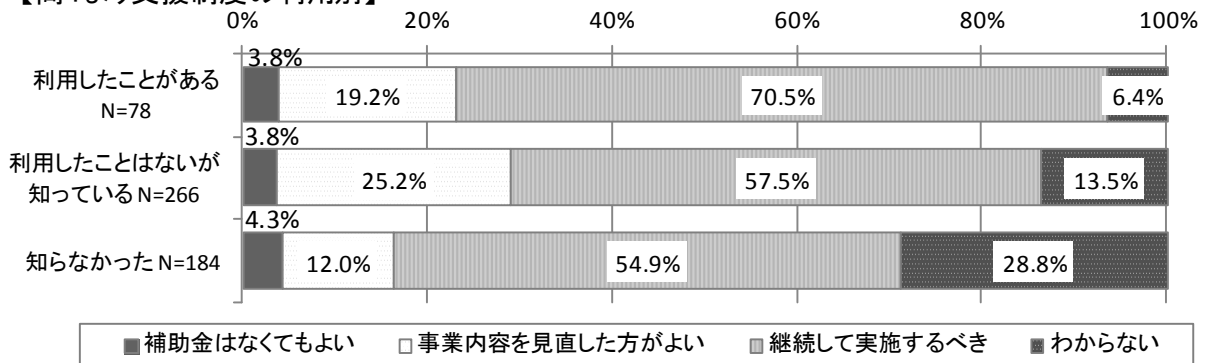
【全体】



【年代別】



【問1より支援制度の利用別】



○全体では、「継続して実施すべき」が最も多く 58.5%、次に「事業内容を見直した方がよい」と回答した方が 19.5%となっている。

○年代別では、80代で「わからない」が最も多いものの、80代以外の年代ではすべて「継続して実施すべき」が最も多い。「継続して実施すべき」と回答した割合が最も高いのは、10代と20代を合わせた年代で 63.8%、次に多いのは40代で 62.7%となっている。

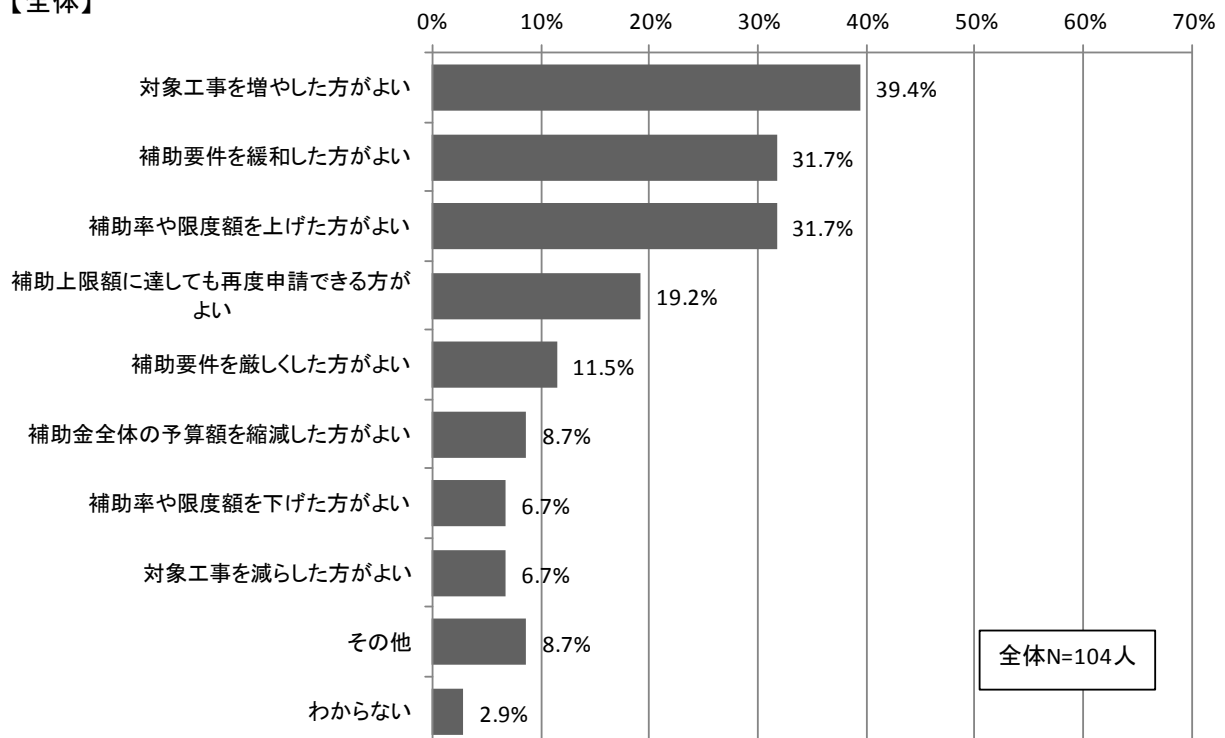
○問1から「支援制度の利用」別で見ると、「継続して実施すべき」と回答した割合が最も高いのは、「利用したことがある」方で 70.5%となっており、「制度を知らなかった」と回答した方の 54.9%とは 15.6ポイントの差がある。

○問1から「支援制度の利用」別で、「事業内容を見直した方がよい」と回答した割合が最も高いのは、「利用したことはないが知っている」方で 25.2%となっており、最も低かった、「制度を知らなかった」と回答した方の 12.0%より 13.2ポイント高くなっている。

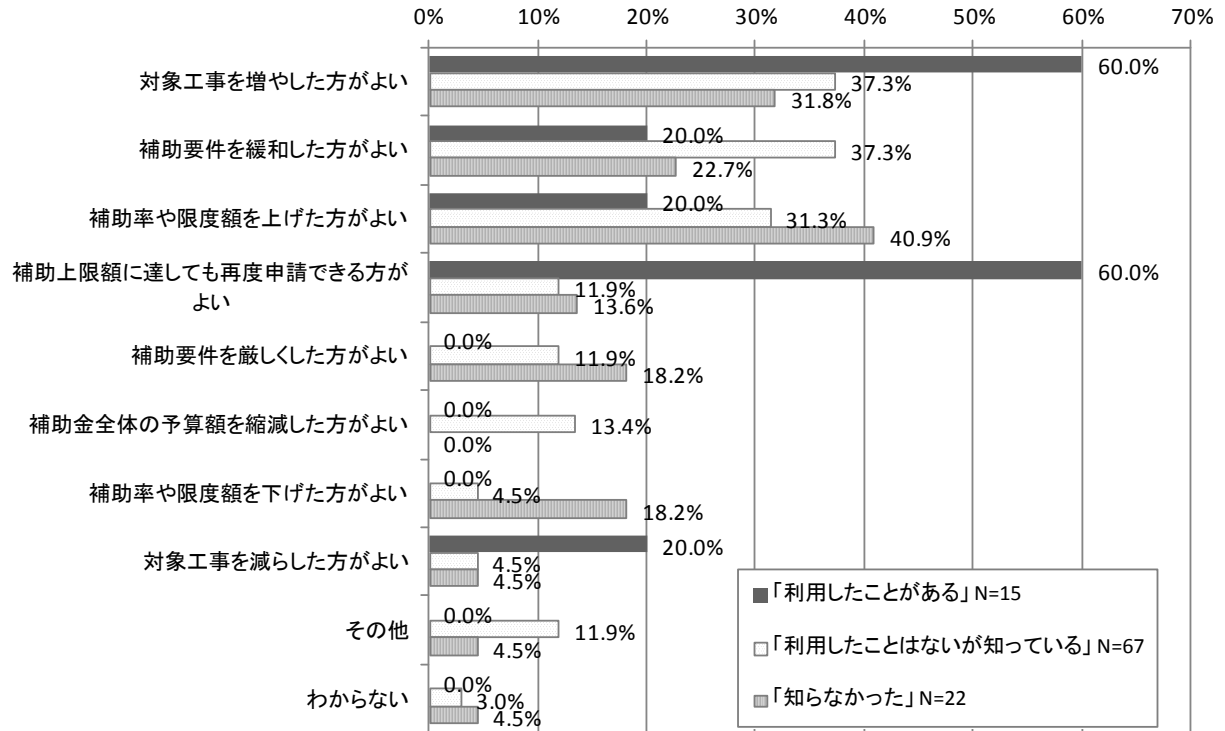
【問2-1】どのように見直しするのが良いと思いますか。（複数回答可）

（問2で「事業内容を見直した方がよい」と回答した方）

【全体】



【問1より「支援制度の利用」別】



■ その他意見

- ・ 申請を簡単にした方がいい (40代/男性/大曲)
- ・ 収入・財産に応じて決めた方がいいと思う (70代/女性/大曲)
- ・ 介護保険制度給付利用とかぶらないものにしたら (60代/女性/中仙)
- ・ 知っている人はよく利用すると思うが、くわしいわかりやすいお知らせ等、みんな同じように使えるとよい。(70代/女性/太田)
- ・ 予算がないのに無理する必要はないと思う (50代/女性/大曲)
- ・ 暮らしの根幹を支える制度はしっかりさせるべき (50代/男性/大曲)
- ・ 事業の利用後有効に活用されているのかの確認が必要だと思う (30代/男性/大曲)
- ・ 書類現場確認をしっかりとした方がいいと思う。(30代/男性/神岡)
- ・ 世帯収入や家族構成、今後何年住めるかなど、工事の重要性等の検討もある程度は必要か (50代/女性/南外)

○全体では「対象工事を増やした方がよい」が最も多く 39.4%で、次いで「補助要件を緩和した方がよい」と「補助率や限度額を上げた方がよい」が同じく 31.7%となっている。

○回答の割合が多い上位は、要件の緩和や対象の拡充、限度額の引き上げとなっており、要件の厳格化や限度額の引き下げについては回答の割合が低く下位を占めている。

○問1から「支援制度の利用」別で見ると、「利用したことがある」方は、「対象工事を増やした方がよい」と「補助上限額に達しても再度申請できる方がよい」が同じく 60.0%で最も多くなっている。「利用したことはないが知っている」方は、「対象工事を増やした方がよい」「補助要件を緩和した方がよい」が同じく 37.3%で最も多く、「制度を知らなかった」方は「補助率や限度額を上げた方がよい」が最も多く 40.9%となっている。

◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

- 本事業は、市民が行う住宅改修に市が財政的な支援を実施することで、居住環境の向上だけでなく、市内住宅関連産業の活性化及び雇用の創出につながるものとして実施している。事業が開始された平成21年度から平成29年度までの10年間で約3,550件以上の住宅改修(大仙市の居住住宅の約14%相当)に支援を行っており、支援事業利用者に対して行っている事後アンケートでは、「当事業があったことからリフォームを行った」、「補助金があったために工事箇所を増やした」、「補助金があったために、建材品質を向上した(トイレやユニットバスの品質を上げた)」という、当事業の存在が工事に良い影響をもたらしたと回答した方が全体の約半数であったことから、市内住宅関連産業の活性化に貢献しているとの結果が出ている。また、この半数に該当しない方でも、利用者アンケートの中では、当事業があったことで経済的に安心して行うことが出来たとの好意的な意見も多々いただいている。本事業が10年間の節目を迎えたことから、今後の事業の方向性について検討するため、支援事業利用したことのない方も含め、広く市民のみなさんからの意識を調査した。
- 問2においては、「継続して実施するべき」と回答した方に加え、「事業内容を見直した方が良い」と回答した方を合わせると約8割の方が当事業の実施を望んでいる結果となった。これまでの事業実績による効果だけでなく、市民に大変好評を得ている事業であると再認識できた。
- ただし、事業内容については全体の約2割の方が見直しを希望していることから、調査結果を参考に精査し、必要に応じて見直しを検討していきたい。